

郷土教育推進研究報告書

令和2年度（2020年度）

「郷土日野」指導事例

～ 第15集 ～



日野市立教育センター

郷土教育推進研究委員会

目 次

巻 頭 言 ～日野の郷土教育を想う～

正留久巳；教育センター所長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第 15 集の発行にあたって ～新たな学びの萌芽を感じた 1 年間～

猿田恵一；郷土教育推進研究委員会委員長 旭が丘小学校 校長・・・・・・・・・・・・・ 2

～ 郷土教育推進研究 ～

研究の構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1 研究の主題

2 活動の目標

3 研究の手立て

郷土教育推進研究委員会の組織及び研究の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

1 研究の組織

2 研究の経過

研究のテーマと実践事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

1 A グループ 「郷土への愛着を高める実践」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

幼年少「ぼくたち わたしたちのまち 日野に興味や親しみをもつ ～『林丈太郎・平山陸稲』を通して～」

第二幼稚園 森陽子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

小 3 総合「高幡不動尊はかせになろう！ ～なぜ高畑不動尊には多くの人々が集まるのだろうか～」

順徳小学校；北原亜希子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

小 5 社会「自動車の生産にはげむ人々」 平山小学校；澤久保敦・・・・・・・・・・・・・ 13

小 4 道徳「願いをこめた植樹」 日野第四小学校；町田禎・・・・・・・・・・・・・ 15

A グループの成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

2 B グループ 「主体的な学びから郷土にふれ郷土を愛する子供たちの育成」・・・・ 18

小 4 国語「パンフレットを読もう ～七生の冊子を活用して」 豊田小学校；高橋誠・・・・・・・・・・・・・ 18

小 4 道徳「平山陸稲」 滝合小学校；北村紗緒里・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

小 4 社会「水害から暮らしを守る」 日野第一小学校；柳井大輔・・・・・・・・・・・・・ 20

B グループの成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

2	C グループ 「郷土を活用した授業実践と教材づくり」	
	～新しい見方・考え方を意識して～	24
小4	国語『一つの花』と郷土教育 夢が丘小学校；永吉智洋	24
小5	算数「比べ方を考えよう」 日野第七小学校；松岡伸明	25
小5	社会「これからの食料生産」 東光寺小学校；峰尾恭子	27
小3	社会「日野市の様子と暮らしの移り変わり」 日野第五小学校；小野泰裕	30
小3	道徳『特別の教科 道徳』における『歩こう 調べよう ふるさと七生』の活用	
	仲田小学校；今西基行	33
	C グループの成果と課題	34
3	D グループ 「郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む教材の開発を目指して」	35
小6	社会「日野市に残る古墳を活用して」 日野第三小学校；石井浩由	35
小6	社会「日野市の子供たちと戦争」 日野第六小学校；市川秀弥	37
小3	社会「まちの昔と今をくらべよう」 日野第八小学校；三島寛之	39
小6	社会「百草の地から見る鎌倉時代～幻の寺、真慈悲寺～」 七生緑小学校；高野淳美	41
小3	社会「大昔の人のくらしや道具」 南平小学校；森清伸	42
	D グループの成果と課題	44
	ふるさと教育系の活動	45
1	1 課 4 館の取り組み ～2020 日野の郷土へのいざない～	
2	わかば教室との連携	
	平山陸稲の栽培体験	
	オンライン社会科見学の支援	
3	『歩こう 調べよう ふるさと七生（第3版）』の刊行	
4	若手教員育成研修会（1年次）の支援	
	令和2年度；活動の成果と今後の課題	48
1	活動の成果	
2	今後の課題	
	編集後記	49
	奥付	

第 15 集の発刊にあたって

日野市立教育センター所長 正 留 久 巳

今年度は、第 3 次日野市学校教育基本構想がスタートし 2 年目でした。「一律一斉の指導から脱却し、一人一人をとらえたその子に望ましい指導をし、教材を工夫し、学習活動を通して子供たちが、学び方を身につけられる授業をつくっていかう」という思いをもって臨もうとしていましたが、コロナ禍で計画変更を余儀なくされた状況でした。本委員会も初顔合わせは 7 月ということになり、新型コロナウイルス感染症に対応しつつ様々な工夫をして研究を進めていただきました。研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成～日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して～」とし、七生の冊子の斬新な活用や 1 課 4 館との連携をもとにした授業づくりは次につながる指導のイメージを想起でき、日野ならではの郷土教育の在り方を示していただきました。園児・児童の視点や考え方をとらえ、主体的な学びを展開できるように教材づくりをし、郷土への愛着や関心を高める研究主題に迫る多くの実践事例を得ることができました。そして、令和 2 年度、様々な困難の中、教育センターの郷土教育推進研究委員会（旭が丘小学校校長 猿田恵一委員長）がとりまとめ編集した『「郷土日野」指導事例集第 15 集』を発行することとなりました。

最後に、郷土教育推進研究委員会に参加してご努力いただいた現場の先生方はじめ、各委員の皆様、顧問の先生、そして子供たちのために様々な連携をしていただいた生涯学習課、図書館、中央公民館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館、に深く感謝申し上げます。

新たな学びの萌芽を感じた 1 年間

郷土教育推進研究委員会委員長
日野市立旭が丘小学校 校 長
猿 田 恵 一

新型コロナウイルス感染症の対応のため、様々な制約の中での教育活動を余儀なくされた 1 年間。郷土教育推進研究委員会もその大波の中、ようやく船出できたのが 7 月でした。いつもの年のようにグループで集まることもままならず、もっぱらメールや C 4th 上での意見交換やデータのやり取りを通じた研究でした。

学校も休業となり、子供たちの学びをどう保証するのか...各校での工夫や幼少教研各研究部でコンテンツの作成など、様々な可能性を探る 1 年間となりました。

郷土教育推進研究委員会では、そうした中でも、感染予防対策をきちんと実施した上で何回かの研究会を開催し、各班のリーダーの先生を中心として、特色ある郷土教育の研究と授業実践が行われました。恒例の研究発表会も実施できない中でも、各班のリーダーの先生によるビデオ収録による研究発表を行うことができ、令和 2 年度の研究推進の道標としてまとめることができたのは幸いなことだと感じています。

郷土教育は、郷土に生き、脈々と暮らしを紡いできた人々の息遣いを感じ、その営みの中から郷土の良さや味わいを感じ取ることに意味があり、その郷土に生まれ、成長する子供たちに、郷土の一員として次の時代を築いていく心情と態度を育てていくことが大切なのだと思います。

今年度 1 年間は困難な中でも研究の灯を絶やさず、新たな形の発展を見た年でした。この灯を生かしつつ、郷土教育がますます推進されることを期待します。

～ 郷土教育推進研究 ～

研究の構想

1 研究の主題

第 3 次日野市学校教育基本構想を受け、令和 2 年度(2020 年度)の研究主題を「郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成」として、副主題を「日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して」と設定しました

2 活動の目標

研究主題に迫るために、以下の 2 点を目標にしました。

郷土に対する興味・関心を生かした探究的な活動を通じて、友達と共に考え、自分たちなりの答えにたどり着くことができる授業を創造する。

郷土を感じ、郷土を考え、郷土への愛着を高め、自らの生き方を考える児童を育成するために、地域の多様な人々との連携による授業を工夫する。

3 研究の手立て

全体を 4 グループに分け、グループごとにテーマを設けて研究しました。

授業実践を通じて実証的に研究を進め、メールを活用して指導案の検討を行いました。

1 課 4 館(生涯学習課、図書館、中央公民館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館)と協働して授業づくりを行い、郷土学習の充実を図りました。

『歩こう 調べよう ふるさと七生』などの資料を効果的に活用して、児童が主体的に問題発見や問題解決を行うようにしました。

郷土教育推進研究委員会の組織及び研究の経過

1 研究の組織（○数字は人数）

郷土教育推進研究委員会のメンバーは、委員長、副委員長、指導主事顧問、幼稚園教諭、小学校教諭、生涯学習課、図書館、中央公民館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館及び事務局で構成されています。

令和2年度郷土教育推進研究委員会委員名簿

	役	氏 名	所 属 等
役員・事務局	所 長	正留 正巳	教育センター
	委員長	猿田 恵一	旭が丘小学校長
	副委員長	秋田 克己	旭が丘小学校副校長
	指導主事	加藤 信秀	日野市教育委員会 学校課
	コーディネーター	清野 利明	教育センター
	所 員	中村 康成	教育センター
	事務局	宮澤 功一	教育センター
Aグループ	委員	森 陽子	第二幼稚園 主査幼稚園教諭
	委員	町田 禎	日野四小教諭〔世話人〕
	委員	北原 亜希子	潤徳小教諭
	委員	澤久保 敦	平山小教諭
	委員	秦 哲子	郷土資料館 主査学芸員
	委員	吉川 正浩	中央公民館 高幡台分室 主任
	顧問	高橋 清吾	日野第一中学校統括校長
Bグループ	委員	柳井 大輔	日野一小教諭
	委員	高橋 誠	豊田小主任教諭〔世話人〕
	委員	北村 紗緒里	滝合小教諭
	委員	高取 裕章	旭が丘小教諭
	委員	山田 瀬奈	多摩平図書館 主事 司書
	顧問	小杉 博司	元日野第一小学校長
Cグループ	委員	小野 泰裕	日野五小教諭
	委員	松岡 伸明	日野七小教諭
	委員	峰尾 恭子	東光寺小主任教諭
	委員	今西 基行	仲田小教諭
	委員	永吉 智洋	夢が丘小教諭〔世話人〕
	委員	高橋 秀之	新選組のふるさと歴史館 学芸員
	顧問	吉野 美智子	元百草台小学校長
Dグループ	委員	石井 浩由	日野三小教諭〔世話人〕
	委員	市川 秀弥	日野六小教諭
	委員	三島 寛之	日野八小教諭
	委員	森 清伸	南平小主任教諭
	委員	高野 淳美	七生緑小主幹教諭
	委員	幕田 淳子	生涯学習課 学芸員
	顧問	會田 満	元渋谷区立常盤松小学校長

2 研究の経過

新型コロナウイルス感染拡大や緊急事態宣言の発出等に伴い、4月から6月は、委員会の開催を見合わせ、7月に第1回委員会を開催しました。

コロナ禍の下で生活している幼児・児童のための郷土教育ということで、「『郷土日野』との出会い、ワクワクの45分」という授業のイメージを共有しました。

また、中止となった夏季フィールド研修会に代わるものとして、先生方に日野の素晴らしさや面白さを知ってもらい、郷土教育への関心を高めていただくために20項目のコンテンツを作成し、「郷土学習資料室」というフォルダーにアップしました。

令和2年度の研究の歩み

月	内 容
4 5 6	◦ 研究計画作成 ◦ グループ編制 ◦ グループ世話人決定
7	◦ 第1回委員会 ◦ リモート会議 ◦ グループテーマ決定
9 10 11	◦ グループ研究 ◦ 個人による実践研究 (構想、情報収集、授業)
12	◦ 研究のまとめ、発表
1	◦ 研究報告会 (ビデオ収録)

覗いてみよう！「郷土学習資料室」を

C4th → 「リンク集」 → 「郷土教育資料」 → 「郷土学習資料室」へ



日野の郷土教育を一步前進！



先生！神妙な顔でビデオの撮影に

研究のテーマと実践事例

1 Aグループ「郷土への愛着を高める実践」

令和2年度
Aグループ
郷土への愛着を高める実践

森 陽子 (日野市立第二幼稚園)
世話人 町田 禎 (日野第四小学校)
北原 亜希子 (潤徳小学校)
澤久保 敦 (平山小学校)
秦 哲子 (郷土資料館)
吉川 正浩 (中央公民館)
顧問 高橋 清吾 (日野第一中学校統括校長)

これから、Aグループの発表を始めます。

研究内容（4実践）

- 第二幼稚園 森 委員 年少児『ぼくたち わたしたちのまち 日野に興味や親しみをもつ』・・・紙芝居の作成・読み聞かせを通して郷土に関わる人物や文化に興味をもたせ、体験活動につなげられる実践。
- 潤徳小学校 北原 委員 3年 総合『高幡不動尊はかせになろう』・・・歴史を伝えるものを見つけ出したり、調べたりすることを通して、人々がどのような願いや思いをもってくらしていたかについて考えることができる調べ学習。
- 平山小学校 澤久保 委員 5年 社会科『自動車の生産にはげむ人々』・・・工業（自動車生産）の学習の中で、日野を出発点として発展した日野自動車を扱うことで、郷土に対する誇りや愛情を育むことができる実践。
- 日野第四小 町田 委員 4年 道徳科『願いをこめた植樹』・・・
① 主となる指導内容をきちんと取り扱った上で、
② 身近な地域を取り上げることで、伴って郷土愛を育むことができる教材の作成と実践。

私たちAグループでは、このコロナ禍において柔軟な教育活動が求められる中、研究活動も柔軟に行っていけるよう、教育主題を『郷土への愛着を深める実践』と大きくとらえました。

研究主題

- 令和2年 郷土教育推進委員会 研究主題
『郷土への愛着を高め、
地域と共に生きようとする児童の育成
～「郷土日野」との出会い、ワクワクの45～』
- Aグループ 研究テーマ
『郷土への愛着を深める実践』

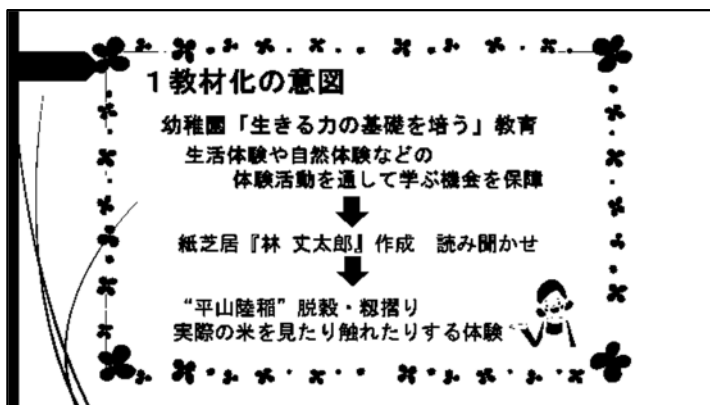
そのため、様々な年齢層の子供を対象に、多様な教科・内容で、4つの研究実践を行うことができました。
これらを順次ご紹介します。

実践①
幼稚園

ぼくたち わたしたちのまち
日野に興味や親しみをもつ
～『林 丈太郎・平山陸稲』を通して～
(幼稚園 年少児)

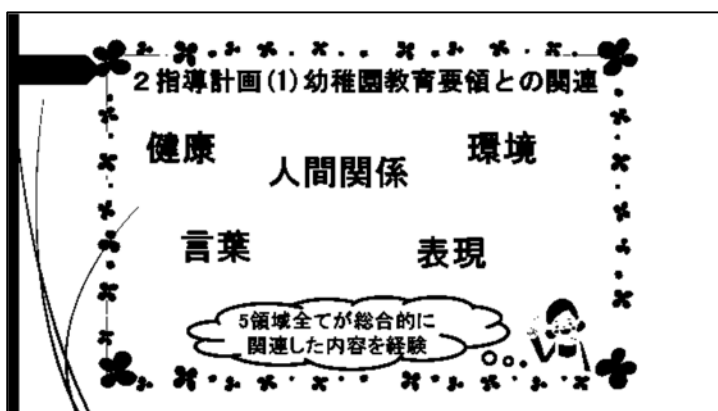
日野市立第二幼稚園 森 陽子

まずは、日野市立第二幼稚園における、郷土教育の取組の方向性について、ご報告いたします。
主題を、『ぼくたち わたしたちのまち 日野に興味や親しみをもつ ～林丈太郎・平山陸稲を通して～』としました。

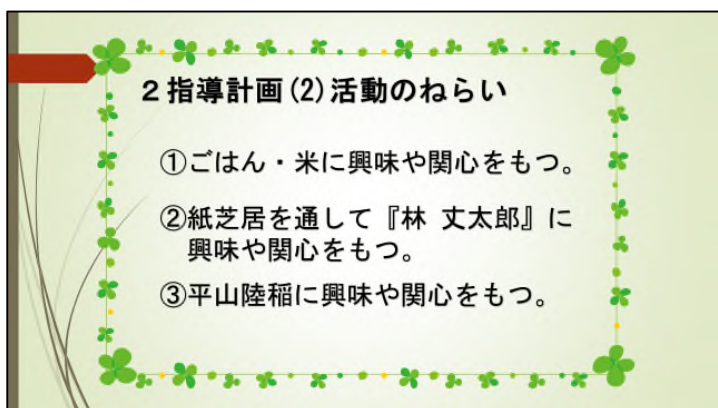


幼稚園では、「生きる力の基礎を培う」ためのひとつとして、季節に応じて野菜を栽培、収穫し食べるといった体験ができるようにしています。食べる楽しさや嬉しさを味わう、食べ物大切さを知り作ってくれる人達に感謝の気持ちがもてるように指導しています。

第二幼稚園がある「平山」には、“平山陸稲”を発見し、農業の発展に大きな功績を残した林丈太郎がいました。隣接する平山小学校では、毎年4年生が“平山陸稲”の栽培に取り組んでいます。平成30年度には、園児も小学生と一緒に“平山陸稲”の苗植えを体験、昨年度は自園でも栽培、収穫することができました。そこで、今回は“平山陸稲”の生みの親である『林 丈太郎』を題材とした紙芝居を作り読み聞かせを行うことで、幼児が『林 丈太郎』を知り、自分達の住む地域に興味や親しみがもてるようにしたいと考えました。また、幼児期は多様な活動の中で直接的・具体的な体験を大切にしています。そこで、実際に、“平山陸稲”を脱穀、粃摺りをし、実際に米に触れ、食べる体験ができるようにしたいと考えました。



今回の教材では、5つの領域全てが総合的に関連した内容で経験できるようにしました。



そしてねらいを、
「ごはん・米に興味や関心をもつ。」
「紙芝居を通して『林丈太郎』に興味や関心をもつ。」
「平山陸稲に興味や関心をもつ。」
の3点とし、実践していくことにしました。

活動内容は左記の ～ です。

2 指導計画 (3) 活動内容

- ①ごはんを使った料理に興味や関心をもつ。
- ②お米の栽培について知る。
- ③紙芝居『林 丈太郎』の読み聞かせを聞く。
- ④“平山陸稲”を脱穀、粳摺りする。
- ⑤家庭で調理してもらい食べる。



2 指導計画 (4) 活動実践

- ①ごはんを使った料理に興味や関心をもつ。



まず、ごはんを使った料理に興味をもてるように、クイズ形式にしました。ここに掲載している写真は、全てごはんを使った料理です。

子供たちが食べる食材で、一番身近な食材がごはんであり、いろいろな形や味で楽しめる食材であることが感じられるようにしました。



いっぱいあそべる！

ばわーあつぷ！

げんきもりもり！

また、「ご飯を食べると、みんなはどうなるのかな？」と質問すると、「パワーアップする。」「げんきもりもりになる！」「いっぱい遊べるようになる！」等、自分が考えたことを動きや言葉で表現する姿が見られました。

2 指導計画 (4) 活動実践

- ②お米の栽培について知る。

②き

①はたけ



③たんぼ



次に、「お米はどこでどのように育つのか」考える機会を作りました。ほとんどの幼児がどのような場所で育つのか「分からない」「見たことがない」と答えていました。「お米は木になる。みかんや柿みたいに！」と、答える姿もありました。

そこで、お米は、一般的に畑ではなく、水田（たんぼ）で育つということが分かるように、画像を見せることで知らせていきました。

2 指導計画 (4) 活動実践

③紙芝居『林 丈太郎』の読み聞かせを聞く。



そして、『林丈太郎』の紙芝居を読みました。

4歳児の子供たちが興味をもって聞けるように、内容や言葉を分かりやすくするとともに、紙芝居では、丈太郎が平山陸稲を作ったきっかけや、強い思いをもって米作りに励んだ様子を伝えました。



子供たちは、丈太郎になった気持ちで「お米ができないな～がっかり～。」「どうしたらおいしいお米が作れるかな?」と言ったり、“平山陸稲”になった気持ちで「大きくなるよ。どんどんどんどん。」と動いたりして、素直に表現していました。

2 指導計画 (4) 活動実践

④“平山陸稲を”脱穀、粳摺りする。



“平山陸稲”を脱穀、粳摺りを体験する機会を作り、実際にお米を見たり触れたりできるようにしました。

ごく少量でしたが、指でしごくことで、粳が外れる面白さを感じて、「もっとやりたい。」と喜んで活動に参加していました。



これは、粳摺りの様子です。自分の指で粳から米を取り出し、お米が出てくるときに「お米ちゃんできてきたよ。」と大はしゃぎでした。

1粒1粒を大切に手の平に載せながら、「おめでとう。うまれてきたね。」と話しかける姿が印象的でした。

2 指導計画 (4) 活動実践

⑤ 家庭で調理してもらい食べる。



最後は、ほんの数粒ですが、粳摺りした陸稲を家庭に持ち帰り、調理してもらい食べる体験ができるようにしました。

保護者にはこれまでの取組の経過を記した手紙を添えました。

子供たちは、お弁当に入れてもらい、「おかばちゃんいただきます。いつものお米よりもおいしい。」と言って食べる姿が見られました。

3 成果と課題

○紙芝居作成による読み聞かせ
脱穀、もみすり体験を通して
幼児が『林丈太郎』『平山陸稲』に
興味や親しみ！

- 直接的な体験活動による郷土教育
- 親子で取り組める郷土教育の実践
- 地域の教育力の活用

この実践の成果として、幼児は紙芝居を通して『林丈太郎』や“平山陸稲”に興味をもつことができ、実物の“平山陸稲”を手にながら、幼児は「これが丈太郎さんが作ったお米だね。」と結び付けて捉えることができたことです。

一方で、幼児が郷土への興味や親しみをより感じられるようにするためには、家庭、保護者の存在が大きいと感じられました。そこで、親子で体験的な活動を通して取り組める郷土教育の実践を考えていきたいと思います。

今後も地域の教育力を活用しながら、子供たちの学びを支えていきたいと思ひます。

実践② 小3 総合

高幡不動尊はかせになろう！

～なぜ高幡不動尊には多くの人々が
集まるのだろうか～

潤徳小学校 北原 亜希子



ねらい

◎高幡不動尊の歴史や、昔から伝わっている
伝統行事を知ること、自分たちが住んで
いる地域に親しみをもつ。

- ・高幡不動尊には昔から受け継がれてきた年中行事や毎日の行事、文化財などがあり、それらが身近な地域の歴史を伝えるものであることに気付くとともに、意欲的に調べようとする。
- ・調べ学習や発表会を通して、高幡不動尊には人々を惹きつける様々な魅力があることに気付く。



ここからは、小学校の実践について3点ご紹介します。

まず、第3学年総合『高幡不動はかせになろう！～なぜ高幡不動尊には多くの人々が集まるのだろうか～』の実践計画をご紹介します。

この実践は3学期を通して、総合学習の枠で扱います。3年生では社会科の学習で日野市の学習をします。

初めての社会科ということで、1学期から自分たちが住んでいる日野市の様子や日野市の農家の仕事やくらしとお店の仕事等について、3学期は日野市のうつりかわりを学習する予定です。

そこで、日野市の学習をしているこのタイミングで、潤徳小学校のすぐ近くにある高幡不動尊を題材に、自分たちの住んでいる地域に親しみを持たせたいと考え、ねらいを設定しました。

高幡不動尊には昔から受け継がれてきた様々な年中行事や毎日の行事、歴史的な文化財が多くあり、それらを調べ、発表していく中で、高幡不動尊には人々を惹きつける様々な魅力があることに気付かせたいと考えました。

単元指導計画

①高幡不動尊の写真を見せ、「なぜ高幡不動尊には多くの人々が集まるのだろう」という学習問題をたてる。

まず第1時で、高幡不動尊の写真を見せ、たくさんの方がお不動さんに来ていることに気付かせました。

そこから、「なぜ高幡不動尊には多くの人々が集まるのだろう」という学習問題を立てました。

②それぞれの児童がもつ高幡不動尊のイメージを、クラス全体で共有する。

The chalkboard displays a mind map centered on '五智塔' (Gochitō). Branching terms include:

- おぼろ
- お堂
- 寺経
- 不動明王
- 建売物
- 土福神
- 山
- 長い階段
- おぼろ
- かざり
- おはな
- 高はた不動尊
- 二体の像
- おみせ
- おみせ
- おみせ
- おみせ
- おみせ
- おみせ

その後、児童がもつ高幡不動尊へのイメージをクラス全体で共有しました。

五重塔や仁王門、土方歳三の像などのよく知られているものから、高幡山にある八十八ヶ所めぐりや七福めぐりについてや、あじさい祭りや菊祭りなどの年中行事についてなど、様々なイメージが挙がりました。

③出てきた高幡不動尊のイメージを分類する。

```
graph TD; A[歴史] --- B[年中行事]; A --- C[その他毎日の行事や日常的に行っているもの]; A --- D[建造物];
```

- 歴史
- 年中行事
- その他毎日の行事や日常的に行っているもの
- 建造物

次に、出てきたイメージを、子供たちと一緒に「歴史」「建造物」「年中行事」「その他、毎日の行事や日常的に行っているもの」の4つのグループに分類しました。

④グループに分かれ、自分が調べることを決める。

「歩こう調べようふるさと七生」を見て、自分の担当を決める。

歴史グループ



児童から出た課題

- ・高幡城について
- ・土方歳三について
- ・新選組について
- ・清和天皇について
- ・高幡不動尊の誕生について

※令和3年1月15日現在

第2時、第3時では、グループ分けを行い、グループの中で誰が何について調べるか、グループごとに分担を決めます。

1月15日現在では、グループ分けと、具体的に自分が何について調べたいかを考えさせるところまで進みました。

ここでは、現時点で児童が考えている調べたいことについて、紹介させていただき
ます。

歴史グループでは高幡城や清和天皇について、また土方歳三の像があることから土方歳三や新選組について調べたいという意見が出ました。

建造物について



児童から出た課題

- ・五重塔
 - ・仁王門
 - ・水琴窟
 - ・不動堂
- など
※令和3年1月15日現在

建造物グループでは、五重塔や仁王門、水琴窟、不動堂などが挙がっています。

年中行事



児童から出た課題

- ・あじさいまつり
 - ・四季の道
 - ・花まつり
 - ・日野新選組まつり
 - ・もみじとうろう など
- ※令和3年1月15日現在

年中行事グループでは、あじさい祭りや四季の道、花まつりや日野新選組祭り、もみじとうろうなどの意見が出ました。

その他



児童から出た課題

- ・毎月の行事
 - ・八十八ヶ所めぐり
 - ・高幡山について
- など
※令和3年1月15日現在

その他、毎日の行事や日常的に行っているもののグループでは、毎月の行事にどんなものがあるのか、八十八ヶ所巡りについて、またそれに関連して高幡山について調べてみたいという意見が出ました。

現時点では授業で行っているのは、ここまでです。次に、今後の指導計画についてお話をさせていただきます。

⑤自分の担当するものについて調べる。

- ・図書館の本や『歩こう調べよう ふるさと七生』で調べる。
- ・パソコン室のインターネットで調べる。
- ・高幡不動尊の見学へ行き、働いている方に話を聞く。

今後は調べ学習に入ります。学校図書を利用し、調べ学習の資料として高幡不動尊に関する本を、日野市の図書館からお借りしました。

その本や『歩こう 調べよう ふるさと七生』を使って調べたり、パソコン室のインターネットで調べたりして学習を進めます。

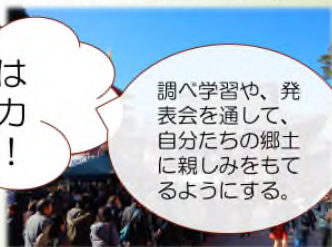
また、高幡不動尊の見学に行き、案内していただきながらお話を聞いたり、質問をしたりして学びを深めていく予定です。

⑥調べたことをまとめ、発表会をする。

発表会を通して、なぜ高幡不動尊には多くの人が集まるのか、自分なりの考えをもつ。

高幡不動尊には
たくさんの魅力
があるから！！

調べ学習や、発表会を通して、自分たちの郷土に親しみをもてるようにする。



調べ学習の後は、グループごとに調べた事をまとめ、クラスの中で発表会を行います。他のグループの発表を聞くことで、自分が調べたこと以外の内容についても知り、高幡不動尊の良さに触れさせたいと思います。そして発表会を通して、なぜ高幡不動尊には多くの人が集まるのか、自分なりの考えをもたせます。子供たち自身が「高幡不動尊にはたくさんの魅力がある」ということに気づき、自分たちの郷土の財産の一つである高幡不動尊に対して、今以上に親しみをもたせたいと考えています。

現時点での成果と課題

(1) 成果

- ①潤徳小学校の子供たちにとって大変身近な高幡不動尊を題材にすることで、興味関心をもたせることができた。
- ②「歩こう調べよう ふるさと七生」を活用することで、子供たち自身で課題を設定することができた。
- ③1課4館との連携で、教師自身の教材研究が深まり、また、教材をお借りすることで調べ学習を深めることに繋がった。

(2) 課題

- ①多数の文化財や建造物等を実際に見て回るだけの時間数の確保が難しい。

続いて現時点での成果と課題です。まず成果については、潤徳小学校の子供たちにとって大変身近な高幡不動尊を題材にすることで、興味・関心をもたせることができた。『歩こう調べよう ふるさと七生』を活用することで、子供たち自身で課題を設定することができた。1課4館との連携で、教師自身が教材研究を深めることができ、教材をお借りすることで調べ学習を深めることに繋がった。・・・ということが挙げられます。

課題としては、高幡不動尊には多数の文化財があり、本来であれば実際に実物を見て回ることが望ましいが、それを行うだけの時間数の確保が難しい、ということが挙げられます。

ただ、授業内で全てを見て回れないからこそ、今後子供たち自身から「近くだから、休みの日に家族で行ってみよう!」「もっと自分で見て回ろう!」という意欲が生まれたいと考えています。

実践③

小5社会

5年 社会科における郷土教育の実践 『自動車の生産にはげむ人々』

日野市立平山小学校
澤久保 敦

研究の経緯

～郷土への誇りや愛情に気付けるような
教材との出会い 社会科×日野自動車～

- 5年生の社会科で、日本の産業についての学習がある。
... 農業・水産業・工業 ... 地域を拠点として取り組んでいる産業が身近であれば、学習に深まりがもてる。
→日野市を起点として発展した「日野自動車」
- 国内・海外ともに大型車の生産台数・売り上げはトップレベル。
→郷土への誇りや愛情につなげられる。

しかし... ↓

- 現在、工場機能は他県の工場へ移転してしまった。
→どのようにして郷土への誇りや愛情に気付ける指導内容にしていけるか。



次に、平山小学校第4学年社会科『自動車の生産にはげむ人々』の実践報告です。

5年生の社会科では、農業・水産業・工業などの産業の学習が主としてあります。自分たちの地域で行っている産業が、日本を支える基盤となっていることを取り扱えば、郷土への誇りや愛情を感じられるものになるのではないかと考えました。

そこで私は、日野市を起点として発展した日野自動車に目を付けました。バスやトラックなどの大型車をメインに製造している会社で、生産台数・売り上げは国内・海外ともにトップレベルにあります。

しかし、現在は日野工場の機能は他県の工場に移転してしまいました。

この現状も含めてどのようにして郷土への誇りや愛情に気付けるような内容にしていけるかを考えました。

指導の流れ

①教材との出会い

日野自動車の位置、名前の由来、ロゴマークの意味を知る。

②課題 日野自動車では、どのような思いをもって自動車の生産をしているのだろう。

自動車産業の中でも自分たちに一番身近な日野自動車の「思いや願い」を考えられるような課題を設定する。

③日野に自動車工場が来た歴史を知る。

日野市ふるさと博物館編集の図書『大工場がやってきた』を参考に、日野自動車と日野市との関わりを捉えていく。

④工場移転の資料から発問を投げかける。

日野市の工場機能を他県に移転する内容の資料を読み、移転後も「日野自動車」として生産を続けている理由を考える。

⑤本時のまとめ

課題に対して、自分の言葉でまとめる。

本実践では、「日野自動車では、どのような思いをもって自動車の生産をしているのだろう。」という課題を立てました。

郷土資料館の秦さんから「大工場がやってきた」という文献を紹介いただき、昭和の恐慌期に日野自動車の基となる自動車工場が誘致されたことを取り上げました。

それから工場が発展していったこと、そして2011年に決定した工場移転のことへと展開していきました。

郷土への誇りや愛情にせまる発問

日野自動車（日野市日野台3）は1月20日、同社本社に隣接する生産拠点「日野・本社工場」を2020年をめどに閉鎖し、工場機能を茨城県つくば市に移転する旨を発表した。

同工場は60年にわたって発展を続けていたが、周辺地域が住宅地として開発されたため工場の拡張や改修が難しく、周辺環境に配慮が必要だった。

移転に際して、「設備増設とスペースの確保が大きい」と日野社長は、設備や顧客を移しても住宅地が広がる。あの場所でも移転を続けることが日野市の皆さんにとって誇りになるのではないかという考えを述べた。

（参考：日野市経済新聞 2011.1.20より 一部省略）

日野自動車の社長は20日の会見で、東京都日野市にある本社工場から茨城県つくば市に移転する新工場に設備を移転し、2020年までに、日野本社工場は閉鎖することを明らかにした。本社や移転後の日野に残る。

日野社長は、工場移転の理由について「日野工場では、生産体制を維持することが難しい。また、新しい生産システムに移行するためには、生産をいったん中止しなければならず、新しい生産体制が構築できなくなる」と説明した。

日野では、2019年にノックダウン生産が開始された。今後海外向けにノックダウンが展開するとみられており、現地の日本企業の生産体制からグローバル生産体制へと移行する。茨城の新工場は、こうした海外向けへの工場移転の契機になる。

（参考：ロイターニュース2011.1.20より 一部省略）

なぜ、工場を移転した後も「日野自動車」という名前なのだろう。

工場移転の理由は、
①工場周辺が住宅地として広がっていったため、地域住民の環境面を考慮して
②海外にまで生産を伸ばしていく足掛かりとして、工場機能を拡張し、新しい生産拠点とするため
その2点をおさえたときに、児童から、

それじゃあ「日野自動車」じゃなくなっちゃうじゃん！

この発言をきっかけにして上の発問について考えさせた。

日野工場の移転については新聞やニュースの記事を使い、移転の理由を確認しました。主な理由としては、第一に、日野工場の周辺が住宅地として広がっていったため、地域住民にとっての環境面を考慮し決断したこと。第二に、海外に生産を伸ばしていく足掛かりとして、より広い土地で工場機能を拡張し、新しい生産拠点とするためです。そういった理由を押さえたときに、ある児童が、「それじゃあ日野自動車じゃなくなっちゃうじゃん！」とつぶやきました。その発言をきっかけにして、本授業で主となる発問「なぜ、工場を移転した後も『日野自動車』という名前なのだろう。」について考える時間をとりました。

児童の反応

工場が移転しても 何故日野自動車なの？

- ・移転しても定着してる名前だから変えない。
- ・日野が始まりだから、日野
- ・本社が日野にあるから。

工場が移転してもどうして「日野」なの？

「本社があるし、ずっとキャッチコピーに『日野』だもん。」

「原点が日野だから、出発点をのこしておきたい!!」

工場が移転してもなぜ「日野自動車」なの？

本社は日野のこのところから、100年をいっしょにまをづくりはじめるのは日野から。

- ・日野市で始まった自動車づくりだから。
- ・すでに「日野自動車」として定着しているから。
- ・原点は日野だから、出発点として残したいから。

郷土が出发点となっていること

児童からは様々な考えが出ました。日野市で始まった自動車づくりだから。すでに「日野自動車」として定着しているから。原点は日野だから、出発点として残したい。

このような議論から、郷土を出発点として発展していった経緯から、工場の場所が日野市から離れても、原点を忘れないよう「日野自動車」の名前で生産を続けていると思う、と考えがまとまりました。

成果と課題

成果

- 工場移転の理由から主となる発問について考えさせることで、「自分たちの郷土が原点」ということを捉えることができた。
- 日野自動車が目指す海外進出に向けた取組についても触れることで、「日野で始まった産業が世界を視野に入れている」と、郷土への誇りを感じる時間になったと思われる。

課題

- 日野自動車側の実際については知ることができなかった。→実際の「思い」を聞くことでより関心を高める教材になったと思う。

最後に成果と課題です。成果としては、工場移転の理由から主となる発問について考えさせることで、「自分たちの郷土が原点にある」ことを捉えることができた。また、日野自動車が目指す海外進出に向けた取組についても触れることで、「日野で始まった産業が世界を視野に入れて取り組んでいる」という面も捉えることができた。「日野市から始まったことに誇りをもってやっているんだね。」と、振り返る児童もいました。

課題としては、「実際に日野自動車がどのような思いで生産をしているのか」「名前を変えない理由はなぜか」については情報を集めることができなかったことです。

正解を用意しない分、自由な発想で考えさせることができたのですが、実際の思いを聞くことができればより関心を高め、郷土への愛着を深められる教材になったのではないかと思います。

実践④
小4 道徳

4年 道徳科における郷土教育の実践
『願いをこめた植樹』

日野市立日野第四小学校
町田 禎

最後に、第4学年道徳科の授業「願いをこめた植樹」の実践報告です。

昨年度の4年 道徳科 実践

「ねがいをつみ上げた石橋 ～折れた日野橋～」

成果

- 身近な「日野橋」という題材や、「ふるさと七生」の冊子を活用することで、主題を自分のこととしてとらえさせることができ、自分たち自身の郷土を思う気持ちを実感させることができた。⇒②
- 「ふるさと七生」の冊子の活用について、七生地域から離れている当校児童が身近なこととして感じることができるか、子供たちは「日野の一部」ととらえており、冊子の内容を十分自分の身近な事柄として実感することができていた。

課題

- 教科内で行う以上、本来扱うべき教科書教材との両立の難しさ。⇒①
・時間が足りない
・そもそも教科書教材の扱いがこの程度でよかったのだろうか・・・
- 教科書教材に比べ、授業準備に時間がかかってしまったこと。
⇒ もっと気軽に『ふるさと七生』を活用できないだろうか。

- ①主となる指導内容をきちんと取り扱った上で、
- ②身近な地域を関連付けることで、伴って郷土愛を育むことができる授業の創造。

昨年度、同じ4年生の道徳科で、教科書単元「ねがいをつみ上げた石橋」を基に、『ふるさと七生』の冊子と関連付けることで、郷土愛を呼び起こそうとする実践を行いました。身近な「校歌」や「日野橋」を関連付けることで、「台風でも頑張った日野橋って偉い!」という自分たち自身の郷土を思う気持ちを実感させることができました。反面、教科書教材の取り扱いが短くなってしまい、両立の難しさが課題となりました。

そこから、今年度は郷土教育を主とするのではなく、まず「主となる指導内容をきちんと取り扱った上で」、付加価値として「身近な地域を関連付けること」で、いっしょに郷土愛を育むこと」もねらえる授業はできないかと考えました。

研究の経緯

～主となる指導内容をきちんと踏まえた上で、
伴って郷土愛を育むことができる場面はどこか～

- 第1回の委員会では、郷土資料館の 秦 哲子 さんから、「オリンピック1964と日野」について深い関わりがあるとうつ。
・記念植樹碑 ・聖火リレー ・自転車競技 ・東京都や日野市のおもてなし
- コロナ禍によるオリンピック延期という時事。様々な行事縮小による児童のモチベーションダウン。
→ オリンピックをはじめとし、様々なことに対し、児童のやる気を奮い立たせるような授業。

- 日野市郷土資料館、日野市中央公民館 制作動画「東京オリンピックのレガシー」
<http://hino-museum.jp/日野の郷土へのいざない>

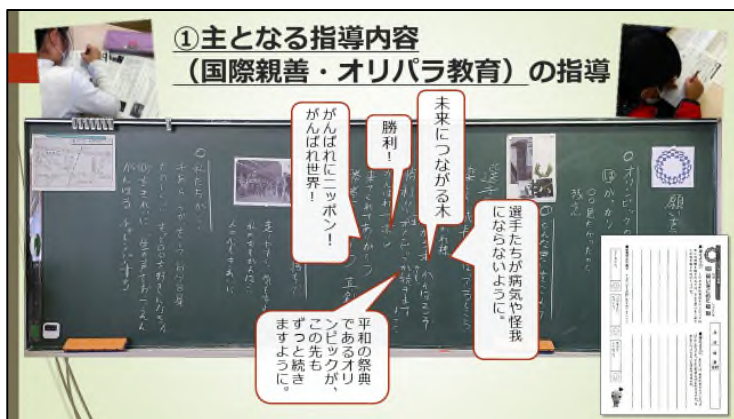


そんな中、郷土資料館の秦さんから、「1964年のオリンピックと日野」に深い関りがあることと、「東京オリンピックのレガシー」という動画をご紹介いただきました。

コロナ禍という将来教科書に載るであろうという歴史的一大事により、様々な行事縮小による児童のモチベーションダウンを感じる中、過去の日野の人々の思いをくみ取り、今の児童のやる気につながられるような授業はできないかと考え、動画「東京オリンピックのレガシー」を基にした独自教材の開発を行いました。

10月16日の学校公開の日に、たくさんの方の前で実践を行いました。

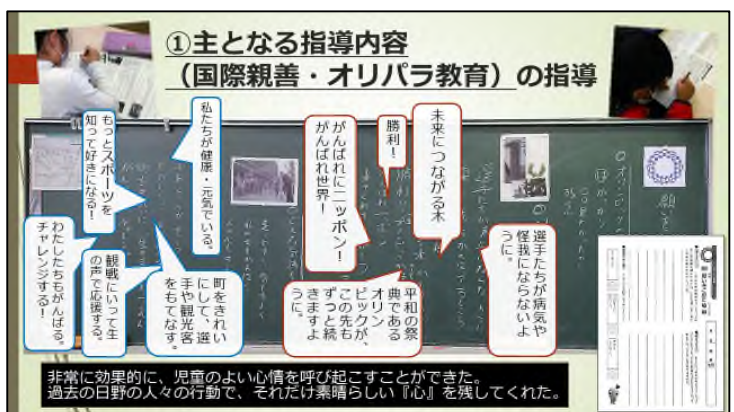
Aグループの検討でも話題になった主発問は、「どんな思いをこめて月桂樹を植えたのか。」としました。



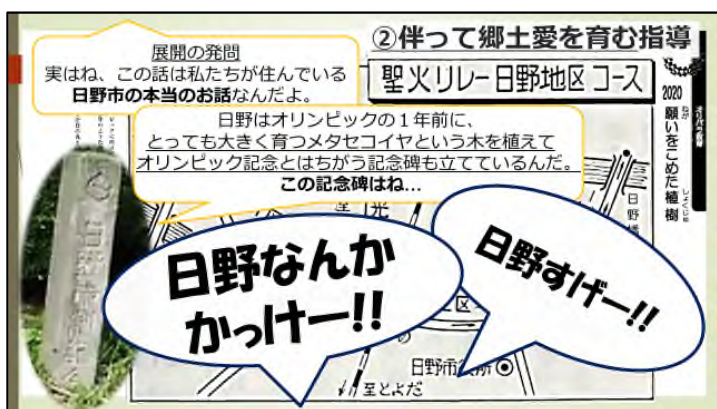
児童からは、
 「選手たちが病気や怪我にならないように。」
 「未来につながる木」
 「勝利！」
 「がんばれにニッポン！ がんばれ世界！」
 「平和の祭典であるオリンピックが、この先もずっと続きますように。」
 などの意見が聞かれました。



自分自身を見つめる2つ目の主発問は、「どんな気持ちでオリンピックを迎えるか。」です。



児童からは、
 「私たちが健康・元気である。」
 「町をきれいにし、選手や観光客をもてなす。」
 「もっとスポーツを知って好きになる！」
 「観戦にいつて生の声で応援する。」
 「わたしたちががんばる。チャレンジする！」などたくさんの意見が聞かれ、非常に効果的に、児童のよい心情を呼び起こすことができたと感じられました。
 言い換えれば、過去の日野の人々の行動で、それだけ素晴らしい『心』を残してくれたのだと思います。



さて、最後にネタバラシです。
 この話の舞台が日野であることを伝えると、数人からは「やっぱりね。」という反応も聞こえましたが、教室を埋め尽くしそうなぐらい多くの「すげー！」という呟きが起きました。児童は「『郷土日野』との出会い、ワクワクの1分」を感じていました。
 最後に「日野市制記念植樹碑」の話を添えると、もう一驚きし、この短時間に児童は多くのことを考えたようでした。
 参観いただいた保護者からも「すごいですね。」「私も日野で育ちましたが、知りませんでした。」と、驚きの声を頂きました。

成果と課題

成果

- 主となる指導内容である「国際親善・オリバラ教育」を効果的に考えさせることができた。
- 自分たちの住んでいる地域の実話を取り上げることで、教材や主題をより身近に感じさせることができた。
- 「実は日野でした！」といったサプライズ的な手法で、短時間で印象的に日野に対する興味関心を高めることができた。

課題

- 教材作成のための知識不足と手間。
1課4館と協力していくことが必要不可欠である。

この実践で、題材を厳選すれば、主たる指導内容をきちんと指導した上で、十分郷土教育の両立がねえることが分かりました。

一方で、この教材は郷土資料館からの紹介と、オリジナルの動画があっただけで、一人の教員だけで効果的な教材を作成し活用することは、とても難しかったでしょう。

1課4館との連携が必要不可欠であり、その一つの場合として、郷土教育推進研究委員会という場に参加させていただいたことに、感謝を申し上げます。

Aグループの成果と課題

成果

- 「平山陸稲」「高幡不動」「日野自動車」などの身近な題材を用いることで、幼児・児童に自分の事として題材を考えさせることができた。
- 郷土教育としてしっかり1時間腰を据えた実践を行わなくとも、一部に触れるだけで、短時間でも十分に園児・児童の郷土を思う気持ちを育むことができた。（郷土教育の敷居が下がった。）
- 森委員・澤久保委員・町田委員への資料提供、北原委員と市立図書館の図書貸し出しの連携など、1課4館との協力体制が築けた。

課題

- 委員会内でも未成熟であり、特に委員会外の先生方にも「郷土教育の授業を行っていただく」にはどうしたらよいか。

4つの研究・実践を通して、「平山陸稲」「高幡不動」「日野自動車」などの身近な題材を用いることで、幼児・児童に自分の事として題材を考えさせることができました。

また、それもタイミングよく扱うことで、短時間でも十分に郷土を思う気持ちを引き出すことができると分かりました。

一方で、これらの指導の仕方について、委員会内でも成熟しているとは言えず、更に委員会外の先生方にも「郷土教育の授業を行っていただく」にはどうしたらよいか、それを考え、より敷居を下げて授業しやすい環境を整えていくことが、今後の委員会の課題であると考えます。

以上でAグループの発表を終わります。

2 Bグループ「主体的な学びから郷土にふれ郷土を愛する子供たちの育成」

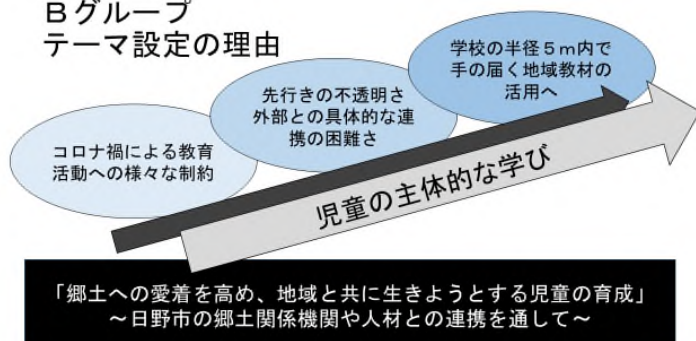
令和2年度 Bグループ

主体的な学びから郷土にふれ郷土を愛する子供たちの育成

世話人 柳井 大輔 (日野第一小学校)
高橋 誠 (豊田小学校)
北村 紗緒里 (滝合小学校)
高取 裕章 (旭が丘小学校)
顧問 山田 瀬奈 (多摩平図書館)
小杉 博司 (元日野第一小学校長)

郷土教育推進研究委員会 B グループの発表を始めます。

Bグループ テーマ設定の理由



私たち B グループでは、テーマを設定するにあたり、コロナ禍という未曾有の事態であるという前提を踏まえつつ、どのような活動が可能であり、かつ児童のこれに寄与するかを考えました。

コロナ禍による教育活動への様々な制約、先行きの不透明さ、具体的な連携の困難さから、学校の半径5m以内で手の届く、地域教材を活用していこう、そして、児童の主体的な学びを促進していこうという共通認識をもちました。

Bグループ 研究テーマ

主体的な学びから、
郷土にふれ郷土を愛する子供たちの育成

- ・ 各々授業を一つ行う
- ・ 対象とする教科を幅広く取り扱う

→教材研究の可能性を広げる

そのため、様々な年齢層の子供を対象に、多様な教科・内容で、3つの研究実践を行うことができました。
これらを順次ご紹介します。

授業1 第4学年 国語
豊田小学校 高橋 誠

単元名 「パンフレットを読もう」
(光村図書 上巻)

扱った郷土資料
『歩こう 調べよう ふるさと七生』 第1版
(日野市教育委員会 作成)

それでは授業を紹介していきます。
一つ目の授業は国語です。単元名は「パンフレットを読もう」
元年度に配布された『歩こう 調べよう ふるさと七生』を活用しました。

教科のねらい

「パンフレットを読んで理解したことに基
いて、感想や考えをもつことができる。」

児童にとって魅力的で、内容に深みのあ
るパンフレットが必要

『歩こう調べようふるさと七生』が最適

本単元の主たるねらいは、「パンフレッ
トを読んで理解したことに基ついて、感想
や考えをもつことができる。」です。その
ためには、児童にとって魅力的な内容、す
なわち身近なものでありながら、初めて知
る情報が多く、内容に深みがあるパンフレ
ットが必要です。

その教材として『歩こう 調べよう ふ
るさと七生』は最適であると考えました。



授業の様子を写真で紹介します。

児童は自分の興味・関心に沿って自分が
取り組みたいページを選び内容を読み深め
ます。

『歩こう 調べよう ふるさと七生』
は、内容が地理的なものや古代から近代ま
で歴史的な幅をもち、その全てのトピック
が見開き 2 ページでまとめられていま
す。

そのため、児童はレイアウトや写真で読
み深めるページを決めたり、冒頭のキャプ
ションを読んで選んだり、自分が組み
みたいページを自ら選び取ることができま
した。



自分で学ぶページを選ぶという行為は
非常に大切だと考えます。自分が決めた
こと、興味・関心の持続のためにも、こ
うした幅のある資料は貴重だと考えま
す。先ほども述べた通り、本資料は地理
的・歴史的な内容が全て 2 ページでまと
められているため、それぞれのレイアウト
にも工夫が施されています。

そのため話し合い活動で友達と意見を交
流する際にも、新たな気付きが見付かる
とともに、他の友達が読み深めたページ
に対してもより興味をもつ児童が増えて
いきました。



授業の最後には、電子黒板で該当のペ
ージを拡大しながら全体に向けて発表を
しました。

国語のねらいに沿いつつ、自分たちの
生活圏に有りながらも知らなかった事や
物に目を向けることができたと考えてい
ます。

第4学年 道徳「平山陸稲」 滝合小学校 北村 紗緒里



宗印寺の石碑



紫色の禾

滝合小学校では、平山地区にゆかりのある林丈太郎の人となりや生き様を道徳の授業で取り上げ、児童の道徳性を育てるとともに郷土を知り郷土を愛する心を育てたいと思い実践しました。

導入で林丈太郎の石碑に出会わせ、展開前段で、彼の生き方を通じて、目標をもち粘り強く生きることの素晴らしさや尊さに気付かせました。その際には、紫色の禾の写真を提示することで、陸稲とはどんなものなのか想起しやすくさせました。

「数々の失敗があったのに、陸稲づくりを続けた丈太郎を支えたものはなんでしょう。」を主発問とし、児童に考えさせました。「村の人々の生活を助けたいと思ったから。」「絶対にあきらめない強く心に決めたから。」など、林丈太郎に寄り添いながら主体的に考えることができました。

ワークシートより

② 林丈太郎の姿から学べることはありましたか。

・ 自分に言い聞かせるように、あきらめないこと。
・ ちゃんと目標を決めてそれに、いっしょにがんばること。
・ めいこと、よくしていくこと。

2 自分の生活について考えよう。

③ あなたは目標をもっていますか。

なんとなくある 5 はっきりと持っている 10

④ これからどうしたいですか。

林丈太郎のようにあきらめずがんばりたいです。
アタシがアタシに誇りたい。
目標、月々のサインを上手にする。
のっている本を見たりいっしょにいたりする。

子供たちが学んだこと

反対でもあきらめず、粘り強く
あきらめなければ、
折れない心
努力

また、「林丈太郎の姿から学べることはありましたか。」という発問には、「すぐにあきらめないこと」「目標に向かって努力していくことの大切さ」などと発表する児童が多くいました。さらに、「こんなすごい人が自分たちの住む地区にいたんだ。」「なんだか嬉しい。」という声も上がり、郷土に愛着をもっていることを実感しました。展開後段では、児童に自己の生き方(これまでとこれから)を見つめさせました。中には、「林丈太郎のように何事も諦めずに頑張りたい。」「これから私も目標を見付けたい。」と、ワークシートに振り返る児童が多く見られました。

本授業を通して、児童の道徳性を育てるとともに郷土を知り郷土を愛する心が少しでも育まれたのではないかと思います。

郷土教育 授業成果

日野第一小学校 柳井大輔

日野第一小学校では第4学年の社会科での郷土教育に取り組みました。

対象：第4学年

教科：社会科

内容項目：水害から暮らしを守る

ここからは、実際に授業で児童に提示したパワーポイントをお見せします。

水害から暮らしを守る

日野市は「丘陵地」「台地」「低地」でできている。

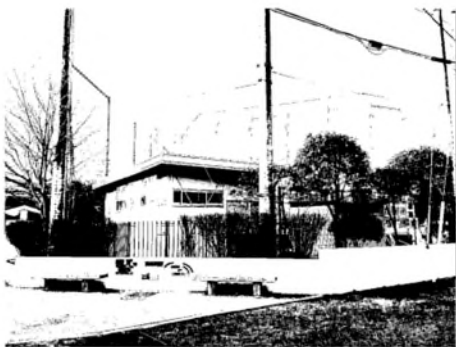


まずは2学期前半に東京都の地理的特徴を学習したので、その復習から入り、日野市の地理的特徴を押さえました。

台風19号の被害

- ・14都県内の15万戸断水
- ・52万戸の大規模な停電など、他にも多大なる被害をもたらした。

さらに、学習内容が災害なので、近年の自然災害に触れ、日野市で起きた災害について学習をしていきました。



ここはどこだと思いませんか？

ここで、学校から一番近い日野第一中学校の写真を見せてクイズを行いました。地元に興味をもたせ、



これはなに…？

そこにある日野レンガに焦点を当てて郷土教育に入りました。なぜこのような場所にレンガが飾ってあり、そこに歴史が書かれているのかを児童に質問しました。

地元にあるのに知らないことがあるということ意識付けしました。



このように日野レンガが橋に使われ、今も残ってます。



実際に日野レンガが残っている場所を提示しました。

様々な被害、災害に合わないため、我々はどうすればいいだろう？

次の時間では、レンガで守れるものもあるが、自分たちのことはだれが守るのかを考え、郷土教育、社会科を学び、その後につなげました。

ここまでが、授業で見たプレゼンテーションスライドです。

授業後、学級の児童は休みの日に、実際に見に行ったようでした。

授業後、学級の児童は、休みの日に実際に見に行ったようでした。

このように社会科の中で、日野の歴史や伝統に触れ、児童は自分の地域・郷土に興味をもち、考えや視野を広げることができました。

知っているけど、行ったことがないところに実際に行き目で見ること、一つの経験が積めるきっかけになりました。

このように社会科の中で、日野の歴史や伝統に触れ、児童は自分の地域・郷土に興味をもち、考えや視野を広げることができました。

知っているけど、行ったことがない所に実際に行き目で見ること、一つの経験を積むことにつながりました。

成果と課題

成果

- ・ 多様な教科での郷土教育の可能性を探ることができた。
- ・ 身近な郷土資料に児童の目を向けることができた。
- ・ 児童は新たな知識の獲得を楽しみ自分から深めていた。

課題

- ・ 興味・関心を一過性にしないためにすべきことは何か。
- ・ 「郷土を愛する児童」の具体的なイメージ。
- ・ 正確な資料へのアクセスの難しさ。
- ・ 児童が理解できる形に変換することの難しさ。

B グループの成果と課題です。

成果としては

- ・ 国語道徳社会科と様々な教科での授業を行い、幅を広げることができました。
- ・ 身近な郷土資料に児童の目を向けることができた。身近な所に材を求めたことで、児童が自ら見に行ったり調べに行ったりするという場面が多く見られたと報告を受けています。

・ そして、いま述べた通り、児童の興味・関心を喚起し、児童が自ら動き出す場面が多く見られたということです。身近にあり、知っているはずの所から新たな知識を得ることが、児童が主体的に動き出すきっかけになったのではないのでしょうか。

もちろん課題も残りました。

・ 児童の興味・関心が一過性のものになってしまったのではないかという懸念です。もちろん様々な教育活動がある中で常に郷土教育ばかりをやることはできませんが、児童の発達段階に応じた縦軸の視点で見る必要があると感じています。

・ 今年度に関しては、実際の資料・体験・本物に触れるといったアクセスは困難でした。また、物理的なものだけでなく、児童が心理的な困難さも抱えているのでは、と考えることもありました。

・ 最後に児童の発達段階に応じた「教材化」の難しさが挙げられます。今回 B グループは全て第 4 学年の授業でしたが、児童の発達段階に応じたかみ砕き方にまだ課題が残りました。

以上で B グループの発表を終わります。

3 Cグループ「郷土を活用した授業実践と授業づくり」

令和2年度
Cグループ
郷土を活用した授業実践と教材づくり
～新しい見方・考え方を意識して～

小野 泰裕	(日野第五小学校)
松岡 伸明	(日野第七小学校)
峰尾 恭子	(東光寺小学校)
今西 基行	(仲田小学校)
世話人 永吉 智洋	(夢が丘小学校)
高橋 秀之	(新選組のふるさと歴史館)
顧問 吉野 美智子	(元百草台小学校長)

わたしたちCグループでは、郷土を活用した授業実践と教材作りをテーマに、1年間活動に取り組みました。その際に、完全実施となった「新学習指導要領」における、新しい見方・考え方を取り入れ、授業実践と教材づくりに取り組みました。

①郷土教育推進による問題と課題を出す

どんな先生でも気軽に活用・授業できる
「ふるさと七生」「日野市という教材」
を生かした教材づくり・授業実践を

日野市の歴史？郷土教育とは？
日野市のイメージが無いです。
異動〇年目なので・・・。

郷土教育は
敷居が高い

はじめに、私たちCグループが初期に話した内容です。グループメンバーで、そもそも「郷土教育を推進するとはどのようなことだろうか？」と話合いを始めたところ、次のような事柄で引っかかりました。日野市の歴史って何がありますか・・・？そもそも郷土教育とは何をなのでしょう？日野市のイメージってどんなものでしょうか？日野市に異動して〇年目で・・・などでした。正直、郷土教育の推進といっても、何をどのように実践するのかイメージすら湧いていませんでした。推進委員の私たちでさえ、こうした問題をかかえていました。他の先生方してみると、なおさら、郷土教育というものは「難しく取り掛かりにくい、敷居の高いもの」になっているのではないだろうかと考えました。

そこで、特別な知識や実践例を生み出すことよりも、日頃の授業にいかに郷土をマッチさせていくかということに主眼を置き、日頃の実践の中にモジュール的に、郷土という1ピースを授業に組み込むような実践をしようと考えました。

②実践と教材作り

(1) 4年国語
「一つの花」と郷土教育

日野市立夢が丘小学校
教諭 永吉 智洋

それでは、先の研究主題にそった、グループメンバーの実践・教材作りについて紹介します。

夢が丘小永吉の実践です。私は、国語の物語文と郷土教育を関連させて授業を行いました。

<郷土教育の視点>
日野市の当時の様子を示す写真を使って、時代を具体的に想像させ、作品の情景を想像させられないか。

<国語の目標（『新学習指導要領 国語』より）>
情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

(思C(1)エ)

この単元では、場面と結び付け具体的に想像することが目標としてあがっています。

しかし、児童に聞いてみると、戦争に関することはよくわからず、どこか遠くの世界でおこった出来事のように感じている児童が多いのが実態です。

そこで、当時の日野市の様子を紹介しながら、戦争は日野市でもあったんだということを理解させ、物語のような場面が日野市でもみられたんだということを伝えられないかと考えました。

<一つの花の背景について>

1 場面	2 場面	3 場面
戦争が 激しかった ころ	お父さんの 出征 (戦中)	ゆみ子が 小さな お母さんに (戦後)

一つの花は、戦中から戦後を描いた戦争文学です。戦後 70 年以上を過ぎ、戦争を知らない世代が多数を占める中、戦争について知ることの大切さや、場面の展開から情景を読み取ることができる作品です。

<2 場面より>

- お父さんが戦争に行く日、・・・
- 駅には、他にも戦争に行く人があって・・・



日野駅の様子



出征を祝う集合写真

2 場面では、父をはじめ出征する人が出てくる場面があります。

当時すでに日野市には鉄道があり、出征を祝う記念写真が残されています。

<3 場面より>

- ミシンの音が、たえず遠くなったりおそくなったり・・・
- 「お母さん、お肉とお魚どっちが・・・」



バイクと記念撮影



イラスト描かれたバス

また、戦争から十数年がたった 3 場面では、ミシンが出てきます。「一つだけ・・・」と、がまんを強いられていた戦中から、戦後の「お肉とお魚どっち」と選べる豊かな時代へと変わっていきます。

戦後の日野市では、市民がバイクに乗ったり、イラストが描かれたバスが走るなど、写真から当時の様子がうかがえます。

授業でこれらの写真を見せた時は、「バイクなんてもっと新しいものだと思った」「デコレーションバスだ」など、児童らしい感想があげられました。どこか遠くのお話ではなく、フィクションでありながらも内容から、時代背景が私たちの生活と直結していたのだと感じさせることができました。

②実践と教材作り

(2) 5 年算数「比べ方を考えよう」

日野市立日野第七小学校
教諭 松岡伸明

<郷土教育の視点>

万願寺に残る一里塚跡に「江戸日本橋より九里」と記載がある。日野万願寺～江戸間の道のりを学習した公式を使って求めさせる。

$4(1 \text{ 里} \approx 4 \text{ km}) \times 9(\text{里}) = 36(36 \text{ km})$
日野市と江戸日本橋までの距離感をつかませ、私たちが住む日野市に興味や愛着をもたせられる機会となる。

日野第七小の松岡です。

道のりを出す公式を理解し、それを適用して道のりをもとめる」との本時の目標に、万願寺にある一里塚を用いました。一里塚とは、街道を通る人に進んだ距離を知らせる塚です。

そこで、江戸から日野市までの道のりを求めることで、日野はどのくらい江戸から離れていたのかというイメージをもたせ日野への興味が高まる授業を組み立てました。この問題を解くのは 5 分程度かもしれませんが、こうした小さな郷土の取り上げ方を行えば、郷土教育を広く進められるのではと考えました。

どのように授業に組み入れたかを、簡単にお伝えしたいと思います。

本時の目標
道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求めることができる。

3 ツバメは、時速70kmで飛ぶことができます。ツバメが3時間で進むことができる道のりを求めましょう。

速さと時間から、道のりを求める方法を考えよう。

時速70kmだから、1時間 70km
1時間て70km進む、4時間が3倍になると、道のりは、

0 70 1 (km)
0 1 3 (時間)

① 道のりを求める式を書いて、答えを求めましょう。(板書)

式: $\text{速さ} \times \text{時間} = \text{道のり}$ 答え: km

② 上のツバメの速さ、時間、求めた道のりを、「速さ＝道のり÷時間」の式にあてはめて、式が成り立つか確かめましょう。

③ 道のりは、次の式で求めることができます。
道のり＝

④ この式が成り立っている関係は、「速さ＝道のり÷時間」と同じだね。

⑤ 分速800mで飛ぶカモメは、5分間で何m進みますか。(ワークシート)

⑥ 答え: 4000m (計算を多くするに慣れよう。)

道のり＝速さ×時間

5年生の「比べ方を考えよう」の道のりの公式を時間です。

一里塚を紹介する

万願寺に昔から残る道しるべみたいなものがあるよ

これは昔、旅行者の道しるべとして作られたものです。大人の足で1時間あたりに進む道のりごとに一つたてられたんだって。1時間あたりに進む道のり(1里)は、約4kmに当たるそうだよ。

日野市の万願寺に一里塚跡があります。一里塚の画像はインターネットで検索できます。
「1里は大人の足で1時間に進む道のりで、約4kmだよ」と大型テレビに映し、簡単に意味を教えます。

なんて書いてある？

画像を大きくすると、「江戸日本橋より九里」と書かれています。

道のりの公式を使って求めてみよう！

▶ 公式
▶ 速さ × 時間 = 道のり
▶ $4 \times 9 = 36$

1里って、1時間に進む道のりで、4kmだね。

九里って、何時間ぶん？

▶ 答え (36 km) 万願寺から江戸日本橋まで だいたい36 km!

1時間あたりに4km進むということは、「時速4km」となります。
1里が1時間に歩く道のりだから、9里は9時間ぶんですね。
万願寺から江戸日本橋までのおおよその道のりを、公式を使って求めることができました。

数学的な見方・考え方の（３）に・・・

- ▶ 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

＜研究内容＞

- ・ 郷土に対する興味・関心を生かした探究的な活動を通じて、友達と共に考え、自分たちなりの答えにたどり着くことができる授業を創造する。
- ・ 郷土を感じ、郷土を考え、郷土への愛着を高め、自らの生き方を考える児童を育成するために、地域の多様な人々との連携による授業を工夫する。

教科の見方・考え方と郷土教育の関連性を考えたいと思います。

授業を行ってみて・・・

５年生ともなると机上の操作になりがちな算数ですが、一里塚を教材に投入して短時間でも数学的活動を取り込むことにより、児童の興味関心を引き付ける事が少しでもできたと思います。

万願寺という割と身近に感じる場所に一里塚跡があることを知らせることにより、教科の楽しさとともに自分たちが住む日野市に愛着が少しでも生まれるのではないかと思います。

②実践と教材作り

（３）５年社会

これからの食料生産

日野市立東光寺小学校

主任教諭 峰尾 恭子

東光寺小学校の峰尾先生の、５年社会「これからの食料生産」に関する実践です。

課題

食料生産に関わる人たちは、これからどのようなことに取り組もうとしているのでしょうか

この単元の始めには、日本の生産量や食料自給率が年々下がってきていることや、食料の輸入によって消費者や生産者、世界の環境にも影響を与えていること学習しました。

本時は、国内の食料の生産や消費を増やすための取り組みについて学びます。

輸出



○日本の米を外国に輸出

→輸出を増やし、生産量を増やす

- T この写真から分かることは何でしょう。
- T 中国語が書いてあるということは、
- C 日本のお米が中国で売られているのが分かります。
- T なぜこのような取り組みが行われているのでしょうか。
- T 輸出を増やすのは、国内の生産量を増やすためですね。

野菜工場



○工場で計画的に生産

→◎農薬不使用 ◎天気 ◎害虫
△費用がかかる

- T これは何をしているところでしょうか。
C 室内で野菜を育てているところです。
C 室内で光や温度を調節しています。
T メリットやデメリットは何だと思えますか。
C 天気や虫の被害を心配することもないので、計画的に野菜を生産することができます。
C しかし、電気代などに多くの費用がかかります。

契約農家



○スーパーが地元の農家と契約

→◎生産量安定 ◎安くなる
◎フードマイレージが小さい

- T 契約農家の写真です。これは、どこが契約しているか分かりますか。
スーパーマーケットが近くの農家と契約しているのです。
契約農家があることの良いところは何だと思えますか。
スーパーマーケットが生産から販売まで全てを管理することで、質の良い作物を安消費者に届けられます。
また、フードマイレージが小さいので、環境に配慮することもできます。

直売所



地元で
生産・加工

◎地元の生産者を応援
◎フードマイレージが小さい

- T さてこれは、スーパーマーケットでしょうか。
ここは直売所です。直売所って分かりますか。
直売所とは地元でとれた農産物や、それらを使った加工品なども売っている所です。
直売所は地元の生産者を応援することができますし、また、フードマイレージも契約農家と同じように小さくなっています。

直売所

東光寺小学校の近くにも
あるのを知っていますか？

七ツ塚ファーマーズセンター



- T みなさん、東光寺小学校の近くにも直売所があるのを知っていますか。
この写真に見覚えはありますか。
そうです、ここは「七ツ塚ファーマーズセンター」です。
お買い物をしたことがある人は？
どんな物がありましたか？



T ここでは、日野市で作られた物がたくさん売られています。
 学校給食にも出ているりんごがあります。どなたが生産しているか知っていますか。
 由木農園の作物です。
 また、これも同じ生産者さんが育てたにわたりの卵です。



T 由木農園ではブルーベリーも育てています。
 そのブルーベリーを使って、アイスクリームに加工したのもファーマーズセンターで売られています。



T こちらも日野市で作られたものです。
 ひの「樽トマト」の名前の由来ですが、樽のような大きな植木鉢で一株ずつ育てられていることから命名されました。
 天気の影響を受けずに、おいしいトマトが出荷できるようになったそうです。

日野の生産者
日野の作物
日野(近く)の人が食べる

T このように、生産そして消費を増やすために、様々な取り組みが行われています。

地域の食料生産を大切に 地域でとれた食料を 地域で消費する（食べる）

ち さん ち しょう
地産地消

T それぞれの地域で続けてきた食糧生産を大事にして、地元でとれた食料を生かしていく「地産地消」の取り組みも大切です。

国内の各地で、食料生産に関わるさまざまな人たちが、生産や消費を増やすための取り組みを進めています。

②実践と教材作り

（４）３年社会

日野市の様子と暮らしの移り変わり

日野市立日野第五小学校

教諭 小野 泰裕

『ふるさと七生』を使った授業として、京王線に着目した授業案を提案します。

学習指導要領との関連

社会科第３学年の目標

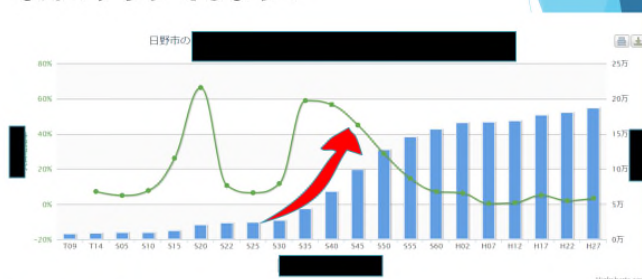
（１）身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的な資料を通して、必要な情報をまとめる技能を身に付けるようにする。

（２）社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたいことや選択・判断したことを表現する力を養う。

学習指導要領との関連です。下線の部分が主に関連する場所になります。

それでは子供になった気持ちで考えながら聞いてください。

なんのグラフでしょう？



T:大正 S:昭和 H:平成
1963年（昭和38年）11月3日 市制施行

これはいったいなんのグラフでしょうか。考えてください。

これは日野市の人口の動きについてのグラフです。グラフを見て気付いたことはありますか。

昭和30年から人口が急激に増加しています。

日野市の人口はなぜこんなに増えたのか

- ▶ 工場があつて人が集まってきた？
- ▶ 住宅地ができたから？
- ▶ 都心から割と近かったから？
- ▶ 新しい駅や道路ができたから？



日野市の人口はなぜこんなに増えたのでしょうか。考えてください。

- 工場があつて人が集まってきた？
- 住宅地ができたから？
- 都心から割と近かったから？
- 新しい駅や道路ができたから？

日野市に鉄道はいつ通ったのか

- ▶ 中央線
→ 1911年(明治44年) 109年前
- ▶ 京王線
→ 1928年(昭和3年) 92年前
- ▶ 多摩モノレール
→ 1998年(平成10年) 22年前

鉄道に着目してみます。日野市に鉄道はいつ通ったのでしょうか？

- まずは中央線から、109年前に通りました。
- 京王線は92年前です。
- 多摩モノレールは22年前です。

ここでは京王線に注目して考えてみます。

甲州街道と京王線



2つを比べると何か気づきませんか？

これは京王線と甲州街道を比較した地図です。実線が京王線で、破線が甲州街道です。2つを比べると何か気付くことはありませんか？

黒丸のところで分かれていることが分かりますね。

なぜ府中から甲州街道と離れるの？

- 地形的に通れなかった。
- 中央線と通るところがぶつかるから。
- 鉄道を作るお金が無くなった？

実は…

七生地区の人が誘致した！！

(お願いして通してもらった) のです。

『ふるさと七生 (P28)』を見てみましょう。

なぜ府中から甲州街道と離れるのでしょうか。考えてみましょう。

- 地形的に通れなかった。
- 中央線と通るところがぶつかるから。
- 鉄道を作るお金が無くなった？

実は、七生地区の人が誘致した！！
(お願いして通してもらった) のです。
『ふるさと七生』P28 には、次のように書いてあります。

高幡不動尊金剛寺玉南電気鉄道記念碑

京王電気軌道は、府中から東八王子の間に線路を延ばす工事の補助金を国から出してもらったため、玉南電気鉄道（玉南鉄道）という会社を作った。しかし、国からはお金が出なかったので、玉



南鉄道を開通させるために沿線の住民がお金を出して後押した。その中には、7人の七生村村民もいた。

玉南鉄道が開通したときの話が、高幡不動尊の記念碑（写真左）に刻まれている。

国からはお金がでなかったの、沿線の住民がお金を出して支援しました。その中には七生村の村民もいました。

なぜ鉄道を誘致したのか？

- 鉄道が通ると便利だから
- 山の方で困っていたから
- たくさんの人にきてもらいたかったから
- 物資の移動がしやすいから

では、なぜ鉄道を誘致したのでしょうか？

- 鉄道が通ると便利だから
 - 山の方で困っていたから
 - たくさんの人にきてもらいたかったから
 - 物資の移動がしやすいから
- 『ふるさと七生』を読んでみましょう。

はじめは観光地、やがて住宅地（七生地域の変化）

玉南鉄道の開通によって、それまで農村地帯だった七生村の様子が大きく変わっていった。高幡不動尊の門前には、門前町が作られた。参拝客で賑わうようになり、付近には旅館やみやげ物店が建ち並ぶようになった。

京王電線により多摩丘陵ハイキングコースや吉野園などの行楽施設の整備が行われ、七生村には多くの観光客が訪れた。昭和33年（1958）に、緑豊かな行楽地である七生村と日野町が合併して、新しい「日野市」が誕生した。昭和38年（1963）に「日野市」が「日野市」になり、昭和40年（1965）頃から七生丘陵で大規模な住宅開発が始まった。

京王線を利用して都心に通勤できる緑豊かな地域は、人気のある住宅地になっていった。人口が増えたため、多くの小学校や中学校が作られた。

駅名を変えた 玉南鉄道の開通とともに、七生村では、行楽地としてたくさんの人に来てもらうと力を入れた。やがて大勢の人が観光に訪れるようになった。七生の3つの駅名が変わり、「観光地」を強調する名前になった。

西草 → 吉野園 昭和12年（1937）
高幡 → 高幡不動 昭和12年（1937）
中山 → 七生 昭和30年（1955）

鉄道ができる

- 高幡不動尊に門前町ができ参拝客が増えた
- 観光名所が増え観光客が増えた
- 産業が発展し住民が増えた
- 住宅開発が始まり住宅地が増え人口がさらに増えた

簡単にまとめます。

鉄道ができた→高幡不動尊に門前町ができ、参拝客が増えた→観光名所が増え、観光客が増えた→産業が発展し、住民が増えた→住宅開発が始まり、住宅地が増え、人口がさらに増えた

京王線がもたらしたものは

- ▶観光客の増加
- ▶産業の増加
- ▶お金の増加
- ▶人口増加

七生地域の人たちの思いが日野を発展させた

京王線がもたらしたものは

- ・観光客の増加
 - ・産業の増加
 - ・お金の増加
 - ・人口の増加
- 今回の授業をまとめると
七生地域の人たちの思いが、日野を発展させたことが分かります。

②実践と教材作り

(5) 「特別の教科 道徳」における 『歩こう 調べよう ふるさと七生』の活用

日野市立仲田小学校
教諭 今西 基行

「特別の教科 道徳」の授業における
『歩こう 調べよう ふるさと七生』の活用
について考察します。

学習指導要領との関連

小学校学習指導要領 特別の教科 道徳編
第3章 道徳科の内容 第2節 内容項目の指導の観点

17 伝統の文化の尊重、国や郷土を愛する態度

〔第1学年及び第2学年〕

我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。

〔第3学年及び第4学年〕

我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。

〔第5学年及び第6学年〕

我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。

地域にある公園や生息する生き物について調べることを通して、地域の環境への関心を高め、理解を深めることができます。

第3学年「特別の教科 道徳」における 授業実践例

『新訂 新しい とうとく③』東京書籍（教科用図書）

教材名 「ふるさといいとこさがし」

内容項目 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

主題名 私たちのふるさと

ねらい 地域のよさを発見し、国や郷土を大切にしよう
とする心情を育てる。

実施時期 2月

第3学年の内容項目「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の授業において、自分の住んでいる町のよいところを見付ける活動の際に、『歩こう 調べよう ふるさと七生』を活用する。

『歩こう 調べよう ふるさと七生』の活用例①

P 6, 7 「1 七生の豊かな自然を訪ねて」

○お気に入りの風景はどこにある？

○大昔は海だった！

○多摩川でも化石発見

○公園や散策路、用水など身近な場所で自然を楽しもう

○用水と河川～水辺の自然～

地域にある公園や生息する生き物について調べることを通して、地域環境への関心を高め、理解を深めることができます。

『歩こう 調べよう ふるさと七生』の活用例②

P 2 8, 2 9 「1 2 はじめはとぎれていた京王線」

◎七生村村民がお金を出してできた玉南電気鉄道

○高幡不動尊金剛寺玉南電気鉄道記念碑

○新宿から八王子が一本に結ばれた！！

○南平駅ができた

○駅名を変えた

○軌間

○はじめは観光地、やがて住宅地（七生地域の変化）

○京王線の歴史を知る人の話

京王線の変遷を知ること、日野の発展について多方面から捉えることができます。例えば、鉄道の開通や駅の設置に伴う町の発展について知ることができます。

『歩こう 調べよう ふるさと七生』の活用例③

P 3 2, 3 3 「1 4 平山おかぼ 七生村の農業」

○「丈太おかぼ」ものがたり

○宗印寺にある林丈太郎の碑

○途絶えてよみがえった平山おかぼ

○農業が盛んだった七生村

○現在に引き継がれる農業

梨園やりんご園など、それぞれの地域に所在する農家への関心を高めることができます。以上で終わります。

③成果と課題

○これまでの研究成果をもとに、より実践的な授業・教材づくりに取り組むことができた。

▲郷土教育と教科をどのように関連付け、教科（単元）の目標に近づけるか（近づくか）。

Ｃグループの成果と課題です。

担当学年や、様々な教科・視点を生かしながら、なんとか形にして授業できたことが、最大の成果だと考えています。

課題としては、やはり授業をする以上、教科・単元の目標にどこまで迫れるかというのが最重要点です。そこにどう関連付けできるかという点を忘れず、今後につなげていきます。

4 Dグループ

「郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む教材の開発を目指して」

令和2年度
Dグループ

郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む
教材の開発を目指して

世話人	石井 浩由	(日野第三小学校)
	市川 秀弥	(日野第六小学校)
	三島 寛之	(日野第八小学校)
	高野 淳美	(七生緑小学校)
	森 清伸	(南平小学校)
	幕田 淳子	(生涯学習課文化財係)
顧問	會田 満	(元渋谷区立常盤松小学校長)

日野第三小学校 石井 浩由と申します。
これからDグループの発表を始めます。

令和2年度 郷土教育推進委員会 研究主題

『郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成』
～「郷土日野」との出会い、ワクワクの45分～

Dグループ研究テーマ

『郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着
を育む教材の開発を目指して』

私たちDグループでは、研究主題である『郷土への愛着を高め、地域と共に生きようとする児童の育成』～「郷土日野」との出会い、ワクワクの45分～を受けて、『郷土への関心、理解を深め、郷土への愛着を育む教材の開発を目指して』とグループの研究テーマを設定しました。

研究方法は、1課4館の方々と連携し、児童の郷土への関心・理解を深め、郷土への愛着を育むことができる教材の開発を行うことです。

開発した教材が、指導内容をしっかりと踏まえていること。研究した成果が市内の先生方にとっても手軽に活用できることを目指しました。

研究内容

○日野第三小学校 石井委員 6年 社会科『日野市に残る古墳を活用して』
セツ塚古墳、平山古墳など日野市には古墳時代の遺跡が多く残されている。教科書で学ぶことが、自分たちから遠くの出来事ではないことを知り、内容の理解を深め、郷土への理解を深める。

○日野第六小学校 市川委員 6年 社会科『日野市の子供たちと戦争』
戦時中の日野市の子供たちの暮らしの様子や、戦争による影響について資料から読み取り、考えることを通して、郷土の理解を深め、郷土の平和への願いをもつ。

○日野第八小学校 三島委員 3年 社会科『まちの昔と今をくらべよう』
学校周辺の農地や住宅地、店舗などの建物、公共施設、道路などについて、航空写真を用いて時間的な変遷を辿りながら見ていくことで、自分たちが住む地域を深く知り、郷土への理解を深める。

○七生緑小学校 高野委員 6年 社会科『武士の政治がはじまる』
百草八幡神社、真慈寺を学ぶこと通して、鎌倉時代に政治の中心が京都から関東に移ってきたことを実感し、郷土への愛着を深める。

○南平小学校 森 清伸委員 3年 社会科『大昔の人のくらしや道具』
日野市の遺跡から発見された土器や石器などの道具や資料を活用することにより、郷土への関心や理解を深め、郷土への愛着を育んでいく。

私たちのDグループでは、各委員が独自教材の開発を行いました。

社会科で活用できる資料が多く見つかりました。

6年社会科「国づくりの歩み」における地域資源を活用した教材
『日野市に残る古墳を活用して』

日野市立日野第三小学校
教諭 石井 浩由

この6年生社会科「国づくりの歩み」の小単元の中で、地域資源を活用した教材、活用方法を詳しく紹介します。



本単元では、縄文時代～古墳時代までを扱うことになっています。私は、その中で、「古墳」時代の学習に焦点を当てて、教材の作成を行いました。

授業のねらいは「大和朝廷と地方豪族の関係を調べ、国土が統一されていったことを捉える。」となっています。

豪族の権力や支配力の大きさや、大和朝廷の広がりやを示す資料となる「古墳」について、教科書に示されている資料に合わせて「日野市の古墳」を扱うことで、教科書の内容の理解をより一層、深められると考えました。



授業の展開の仕方としては、資料 の大阪府に現存する大仙古墳の大きさから、当時の豪族の権力の大きさや支配力、「古墳」が何なのかということをつまえます。

その際、本校（日野第三小学校）児童であれば、七ツ塚古墳・七ツ塚公園という言葉を出すことになります。教科書に掲載された「古墳」と呼ばれるものが、普段の生活の中で耳にしている場所であり、同一の目的で造られたことを知ることになります。「七ツ塚古墳は、公園内のどこにあるんだろう?」「いったい誰のお墓なんだろう?」そして、資料 で「埴輪」の存在を知ると、「そういえば、近くに「埴輪公園」ってあるけど関係があるのかな?」など自然と興味が広がっていくと考えられます。誰が眠っているお墓なのかということは、正確には分かっていないそうですが、埴輪公園では実際に埴輪が出土したことがあることや、古墳の位置図などを確認することで、自分たちの生活の中にも、この時代の遺跡があることを知ることができ、歴史への理解を深めることができると思います。



次に、資料 古墳の分布図から「古墳」が全国に広がった様子を捉えます。近畿・瀬戸内海で造られ始めた「古墳」が、しだいに全国に広がっている様子を、教科書の資料に合わせて、自分たちの身近にある七ツ塚古墳の存在から理解することができると考えました。

そして、資料 のワカタケルと書かれた鉄剣が九州と関東で発見されたことから、大和朝廷の広がりや、支配力を捉える際、「七ツ塚古墳も大和朝廷の一部だったのではないかと考えるきっかけにもなると考えました。

授業のまとめとして、日野市には、七ツ塚古墳以外にも古墳があることを紹介することも考えられます。この資料を紹介することで、より古墳が全国へ広がったことが理解できると考えます。

成果と課題

成果

- ・児童にとって、身近な「七ツ塚古墳」を扱うことで、教科書の内容を自分の身近な事柄として捉えることができる。
- ・本来扱うべき指導内容を十分理解することで、地域の資源を活用した授業が行える。

課題

- ・活用する資料に対する教員の理解。
- ・教科書教材に比べ、準備に時間がかかってしまうこと。

教材作成を通して、歴史という過去の出来事を扱う際、日本に残る資料が必ずしも自分たちの住む地域にあるとは限りません。しかし、自分たちの住む地域にある資源を活用することで、児童の興味や関心に寄り添った授業ができると思います。また、しっかり教材研究を行い、指導内容を十分理解することで、地域に残る資源を使った授業が行えるのではないかと考えました。

課題としては、私たち自身が資料への理解を十分に行う必要があることです。実際には七ツ塚古墳が大和朝廷との関連があったかどうかということは不明です。

活用する資料でどこまで児童に考えさせ捉えさせるかなど、十分に教材研究を行う必要があります。そのためには、1課4館の方々の協力が必要になります。

6年社会科

「戦争と人々の暮らし」における地域資源を活用した教材『日野市の子供たちと戦争』

日野市立日野第六小学校
教諭 市川 秀弥

6年生社会科「戦争と人々の暮らし」の小単元の中で、地域資源を活用した教材とその活用方法を紹介いたします。



本単元では、日中戦争から終戦までの15年間の戦争の時代と、その当時の人々の暮らしなどを学習します。

私は、その中でも、全7時間中5時間目にあたる「子どもたちと戦争」という学習に着目し、教材の作成をしました。

この授業のねらいは「戦争中の子供たちの暮らしの様子を調べ、戦争が子供たちの暮らしに与えた影響を考え、表現する」です。

そこで、当時の日野の子供たちに関する資料を提示し、当時の子供たちの暮らしの様子について考え、戦争が子供にどのような影響を与えたのか、考えを深められるようにしようと考えました。

なお、日野の子供たちに関する資料は、今から24年前に発行された「明日に伝える戦争体験～戦後50周年記念平和事業『戦争資料展』」によせて～」に記載されているものを扱います。

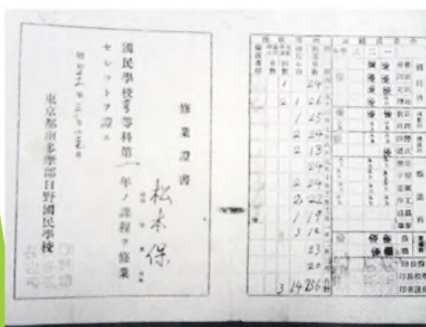
それでは、実際にどのような資料があるのかを紹介いたします。

①当時の教科書、児童が描いた絵

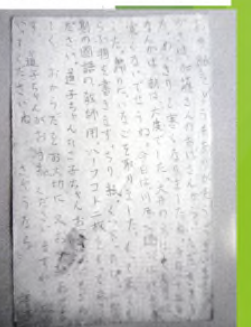


まず左の写真は、昭和17年に発行された「よみかた四」という国語の教科書です。写真にあるとおり、「海軍のにいさん」というお話が掲載されています。また、右の写真は、戦時中の日野市の子供が描いた絵です。夜空を飛ぶ戦闘機やそれを照らし砲撃する様子が描かれています。これらの資料から、当時は戦争をよいものとして美化し、軍国主義的な教育であったことが分かります。子供へ大きく影響を与える教育を手段としていた恐ろしさも、考えられるとよりよいと思います。

②国民学校通信簿



③疎開児童の手紙



続いて、左の写真は、昭和20年度日野国民学校の通信簿です。当時の通信簿は、紙質が悪く小さいものでした。終戦間もなく、物資が欠乏していたことが分かります。また、8月の出席日数が他の月と違うのは、終戦により授業の一時中断があったためで、これも、子供たちへの影響と言えます。次に、疎開児童が離れて暮らしていた母親へ宛てた手紙です。戦時中、日野には大井第一国民学校（品川区）、氷川国民学校（港区）の児童たちが集団疎開に来ていました。手紙には、丁寧な文章で母を思いやる言葉や、自分たちの生活を知らせる言葉が書かれています。親と離れて暮らす寂しさと、それでも強く生きようとするたくましさがあったことを、児童に考えさせられると思います。

④疎開児童の日記と八王子空襲



八王子の方へ飛んで行く。昔、ガサガサふるえて山も出ない。大空襲らしい。夜に足音でいた先生の足音が聞える。『松沼が燃え出した。夏もあふない。これから山の軍艦の防空壕へ待避する。先頭は保護隊だ。三年生、六年生の順だ。暗い上あふないから、型にかけ抜ける。胸がわくわくして、目の中がからからだ。『出発。』で機から飛び出る。八王子の空が黒い。夏のすくすくの家が赤い煙を出して燃えている。頭の上には防空の赤い煙が通りすぎる。白い煙の煙を吸い取りながら歩くと、高射砲の音がけしきいい。やっとなの森の中について人見点呼する。六年生が三名足りない。保護隊は村の方へ逃げ出した。その時、村の人の、『先生、はぐれ保護隊の生徒を三人、私の家にあずかってください』という声で、みんな安心した。八王子の空は真赤だ。いつまで燃えるのだろうか。先生は一人煙の煙雲を出て行かれた。空のあちこちに、高射砲のはれつたあとが白雲のように浮いている。暗かなくて、先生が呼びをいらいらした。みんなつかれているので、朝食を終えたら、すぐ避難をした。

昭和20年8月2日
八王子空襲後のまちの様子

最後に、日野に疎開してきた児童による「八王子空襲」と題した日記です。日記には、夜に空襲から身を守り山の防空壕に避難する緊迫した様子が分かりやすく書かれています。

この日記と八王子空襲後のまちの様子が分かる写真を提示し、日野で暮らす子供たちの気持ちを想像させることを通して、いつ命を落とすか分からない恐怖や、それでもたくましく生き抜こうとしていたことを考えさせたいと考えました。

成果と課題

成果

- ・地域に関わる教材を活用することで、子供たちはより関心をもって学習することができた。
- ・身近に起きた出来事に触れることで、地域の平和を願う思いもより強くなる。

課題

- ・発問によって学習のねらいとずれが生じぬよう、発問の適否を吟味する。
- ・効果的な発問について、指導者間で情報共有する。

成果と課題です。

本単元は、このように地域に関わる教材を活用することで、子供たちはより関心をもって学習することができました。子供たちが学習内容と、自分との関係をより身近に感じることができれば、深い学びにつながります。また、それに伴って地域の平和を願う思いもより強くなるということを感じました。

課題としては、どのような発問をすることで、学習のねらいとずれしてしまう可能性がある点です。また、そのことを指導者間で周知を図る必要がある点です。

これらがクリアできれば、地域教材として、活用しやすいと考えます。

3年社会科
「わたしたちのまちと市」における地域資源を活用した教材
『まちの昔と今をくらべよう』

日野市立日野第八小学校
教諭 三島 寛之

3年生社会科「わたしたちのまちと市」の小单元の中で、地域資源を活用した教材、活用方法を紹介いたします。



本教材資料は、3年生社会科の『わたしたちのまちと市』の中の「まちの様子」もしくは「日野市の様子」の場面での活用を考えています。

授業のねらいは「昔と今の地域の様子がわかる地図や写真を見比べて、土地利用の変化に気付き、時代とともに地域が変化したことを捉えられるようにする。」となっています。

自分たちが住む身近な地域の移り変わりを知るために、教科書に示されている資料に合わせて「自校と周辺の航空写真」を扱うことで、教科書の内容の理解をより一層、深められると考えました。



航空写真の提示の仕方は、授業者の授業構成によって使いやすいように活用してもらえることがいちばんと考えています。

今回は、オーソドックスに、現在の航空写真から過去に遡って見ていくことで、現在の地域の特徴を確認しつつ、もともとはどのような特徴があったのかを捉えていく構成にしました。



定点観測となっているため、変化したものと変化しないものの両面を捉えさせることが重要となります。

児童には、変化しないもの（鉄道や道路の位置、土地の区画、神社や寺院、公共施設など）を先に着目させると、変化している場所を捉えやすくなります。



学校周辺の農地や住宅地、店舗などの建物、公共施設、道路など、本時以前に学習した内容を確認しながら、時間的な変遷を辿って見ていくことで、自分たちが住む地域を深く知ることができます。



ちなみに、これらの写真は日野第八小学校を中心とした地域の航空写真となっています。昨年度50周年を迎えた八小は、1969年に開校したため、この1970年代の写真には写っていますが、



この1960年代に撮影された航空写真には写っておらず、周辺が田畑であったことが分かります。

このように、時代とともに地域が変化したことを捉えることができ、また時代順に見ていくことで、どのように土地利用がされることになったのかを分かりやすく見取ることができる資料と言えます。

成果と課題

成果

- ・身近な題材であり視覚的な情報のため、興味をもって取り組みやすい。
- ・社会だけでなく、総合的な学習の時間など、いろいろな場面で活用できる可能性が考えられる。

課題

- ・基となる資料を気軽に活用できるような共有の場を用意し、周知していく必要がある。

本資料は、児童にとって身近な教材であり、視覚的な情報のため、興味をもって活動に取り組みやすいと感じました。また、社会だけでなく総合的な学習の時間など、いろいろな学習場面で活用できるのではないかと感じました。

一方で課題として、教科書や副読本に載っている資料は、必ずしも自校や周辺地域のニーズに適合するものではないという現状があります。

従って、自分たちの住む地域にある資料や自分の地域を表している資料を、データベース化していき、共有できるようにすることがよりよい授業を作る上で、重要になってくると考えます。そのためには、教材となりうる資料を共有することや、たくさんの文化財や資料を抱える1課4館の方々の協力が重要となると思っています。

6年社会科「武士の政治が始まる」における 地域資源を活用した教材 『百草の地から見る鎌倉時代 ～幻の寺、真慈悲寺～』

日野市立七生緑小学校
主幹教諭 高野 淳美

6年社会科「武士の政治が始まる」



6年生社会科「武士の政治が始まる」の
小单元の中で、地域資源を活用した教材、
活用方法を紹介いたします。

百草八幡神社



この百草八幡神社は古くから百草の地に
あった神社です。1062年頃、源頼義・
義家が奥州合戦に向かう途中、現岩清水八
幡宮の霊土を埋め、社を建てて戦勝を祈願
したと伝えられています。

また、1192年には頼朝が武運長久を
祈願して太刀一振を奉納したとされていま
す。鎌倉街道も近くにあることなど、鎌倉
幕府とのつながりが感じられます。

「消えた大寺院、真慈悲寺」



百草八幡神社とともに百草の地にあっ
たのが「消えた大寺院、真慈悲寺」で
す。スライドの右側は、『歩こう 調べ
よう ふるさと七生』に載っているもの
です。

真慈悲寺は平安末から鎌倉期にかけ
て、百草の地に存在したと考えられる寺
院で、浅草寺と同じくらいの格式があっ
たとされています。「真慈悲寺」の名前
は、鎌倉時代に書かれた歴史書『吾妻
鏡』の文中に見ることができます。

文献から、1186年頃の真慈悲寺は
仏に備える物もなく、生活に困窮してい
た様子がうかがえます。こうした中、真
慈悲寺の僧は鎌倉へ赴き源頼朝に援助を
願い出、御願寺として再建され、のちに
浅草寺に並ぶほどの大きな寺院となりま
した。

平安時代には京都を中心に政治が行わ
れていましたが、鎌倉時代には関東にそ
の中心が移ってきたことが実感できると
ともに、身近にある歴史遺産を通して郷
土への愛着が深まると考えます。

成果と課題

成果

- ・児童にとって、学区内にある「百草八幡神社」を扱うことで、教科書の内容を自分の身近な事柄として捉えることができる。
- ・社会科見学と連動させて学習ができる。

課題

- ・活用する資料に対する教員の理解を助ける情報の入手。
- ・教科書教材に比べ、準備に時間がかかってしまうこと。

児童にとって、学区内にある百草八幡神社付近に浅草寺並みの大きな寺院があったのではないかということは、とても興味深いことであり、源頼朝や鎌倉時代を、より身近なこととして学習を進めることができます。

また、4年生の社会科見学で浅草寺へ行くため、その格の高さが想像しやすいと考えます。

課題としては、活用する資料に対する教員の理解を深めるための情報が必要なこと、児童向けの教材準備をしやすくすることが挙げられます。

3年社会科

「日野市のようすとくらしのうつりかわり」における
日野市で発見された土器や石器などの道具を生かした教材
『大昔の人のくらしや道具』

日野市立南平小学校
主任教諭 森 清伸

3年生の社会科「日野市のようすとくらしのうつりかわり」の単元の中で、日野市で発見された土器や石器などの道具を生かした教材、活用方法を紹介いたします。

1 教材の作成意図

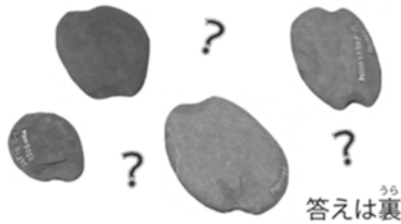
- ①日野市には遺跡が多い。
- ②多くの住居跡や土器、石器などが出土している。
- ③古くから人間生活の営みが展開されてきたことが分かる。

- ↓
- ④これらの財産を学習教材として活用できないか。
 - ⑤地元の遺跡から発掘された道具や資料を生涯学習課や郷土資料館と連携し、活用することにより、児童の学習への興味・関心や郷土への愛着につながるのではないか。

日野市には遺跡が多く、古くから人間生活の営みが展開されてきたことを物語っています。遺跡から発掘される古墳や住居跡、石器や土器などの道具を教材として活用することにより、児童の学習への興味・関心や郷土への愛着を高めることにつながるのではないかと考えました。

2. 教材の活用方法・内容

質問 これなあに？



次に、教材の活用方法・内容についてです。まず、日野市の生涯学習課や郷土資料館の協力をいただきながら、石器や土器などの実物や画像等、授業で活用できそうな資料の準備を依頼します。また、生涯学習課の学芸員さんが作成したC4thのリンク集にある『縄文時代の暮らし～竪穴式住居ができるまで～』という映像資料も活用していきます。

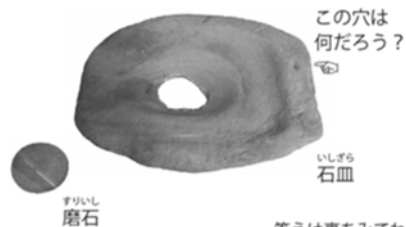
授業においては、まず、日野市の遺跡から発掘された石器や土器の実物や画像などの資料を児童に提示し、児童が資料を見たり触れたりしながら、昔の人の日常生活でどのように使われていたのかを考えさせます。次に、グループで互いに自分の考えた道具の用途について伝え合うことによって、昔の人の生活の様子を想像させます。

さらに、『縄文時代の暮らし～竪穴式住居ができるまで～』の映像資料を活用することによって、自分たちの考えと比較させます。最後に、本時の学習で分かったことや考えたことをノートにまとめ、学習の振り返りをします。

これらの教材の活用方法や内容については、遺跡の発掘調査の進展で新たに出土したものや、年代の違いによって、その応用も可能であると考えます。

3. 年間学習指導計画での位置づけ

質問 なんで大穴があいたの？



3年生の社会科の学習では、「日野市のようすとくらしのうつりかわり」という単元で、昔の道具を見たり触れたりして、気付いたことや分かったこと、実際の使い方などをまとめる学習があります。道具といっても人間の暮らしや生活と密着しているものであり、昔も今も共通点があるので、遺跡から発掘された道具も学習に生かせるのではないかと考えました。

成果と課題

成果

- ・ 地元の遺跡から発掘されたものを教材化することにより、郷土への関心や理解を深めることができる。
- ・ 遺跡の発掘調査の進展に伴い、教材への応用が期待できる。

課題

- ・ 遺跡の発掘調査の進展に伴い、1課4館との連携や教材研究が必要である。

Dグループでの教材開発を通して、日野市は、教材として活用していける歴史的財産が豊かであることを感じました。地元の遺跡から発掘されたものを教材化することにより、郷土への関心や理解を深めることができると考えます。また、遺跡の発掘調査の進展に伴い、教材への応用がイメージできたことも成果の一つです。

課題としては、遺跡の発掘調査の進展に伴い、さらに継続的な教材研究が必要であるということです。また、充実した教材開発のためには、1課4館との連携が重要であると考えます。

Dグループ成果と課題

▶成果

- ・日野という地域には多くの資源・資料があることが分かった。
- ・本来扱うべき指導内容を十分に理解して授業づくりを行うことで、郷土への理解を深め、愛着を深めることができると感じた。

▶課題

- ・活用する資料に対する教員の理解が必要である。
- ・もととなる資料を気軽に活用できるような共有の場を用意し、周知していく必要がある。

成果と課題です。

成果としては、日野という地域には多くの資源・資料があることが分かりました。そして、本来扱うべき指導内容を十分に理解して授業づくりを行うことで、郷土への理解を深め、愛着を深めることができると感じたことです。

課題としては、活用の際には資料への理解が必要なことです。どんな目的で資料を活用するのか、目的を明確にし、資料のもつ意味をしっかりと理解することが必要だと考えました。

二つ目は、資料を気軽に活用できるような共有の場を用意することの大切さです。研究を始めたきっかけが、「日野市にある郷土資源や資料をだれでも活用できるようにしたい」というものでした。話合いを進める中で、資料の中には文化財に指定されているものもあり、大切に保存し、これからも守り伝えていかなければいけないものが多いことを知りました。「誰でも活用できる」ことを考えていく中で、大切な資源・資料をどのような形で活用し、周知していくのか考えていく必要があると感じました。

以上でDグループの報告を終わります。

以上、A B C Dの4グループが、教材研究や授業実践等を通じて実証的に研究を行いました。

各グループの活動報告は、ビデオで下記の処にアップされています。

【ビデオ視聴の方法】

C 4 t h 「リンク集」「教育センター資料」「活動報告・調査研究発表」「R 2 年度」・・・ここに ～ の6編に分けて各グループの報告などが保存してあります。各グループの世話人の熱のこもった報告をご覧ください。

ふるさと教育系の活動

1 「1 課 4 館」の取り組み ～2020 日野の郷土へのいざない～

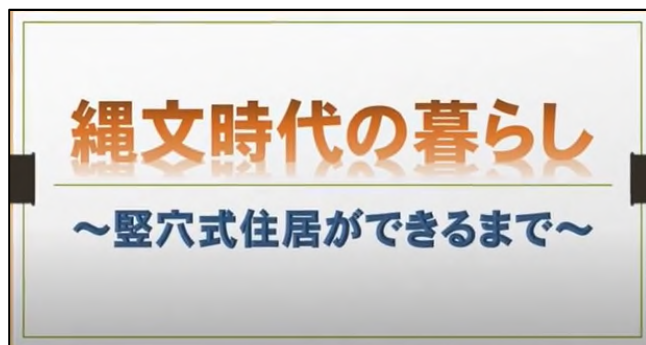
コロナ禍で「まち歩き」ができないことから、1 課 4 館(生涯学習課、図書館、中央公民館、郷土資料館、新選組のふるさと歴史館)、教育センター(ふるさと教育係)とゲストティーチャーが結集し総力を挙げ、市内の文化財と自然を取り上げ、画像や動画にまとめました。

NO	1 課 4 館等で作成した情報のタイトル	担当
1	中世の大寺院“真慈悲寺”(平安時代編)	D
2	縄文時代の暮らし～竪穴式住居ができるまで～	A C
3	東京オリンピックのレガシー	C D
4	「謎解き！新選組のふるさと日野」～地域の歴史を調べてみよう～	E
5	「くらしの中に図書館を」～市民に身近な図書館の先駆け・日野～	B
6	富士山が爆発したら	D F
7	「平山陸稲栽培日記」～わかば教室との連携	F
8	平山陸稲のパネル展示(2 か所)	F
9	パネル展「戦争体験を語り継ぐ」	C D
10	プールでさがさがさゴ探し	D
11	『日野ニュース』『日野人の風を感じて』～受け継がれる煉瓦の歴史～	E
12	『日野ニュース』『日野人の風を感じて』盃状穴の成因を探る～程久保の六地藏から～	F
13	『日野ニュース』『日野人の風を感じて』～ピンハット山の謂れを探る～	F
14	『日野ニュース』『日野人の風を感じて』～古代の氷室が日野にもあった～	G
15	『日野ニュース』『日野人の風を感じて』～古文書からみる日野用水と水車～	G
16	『日野ニュース』『日野人の風を感じて』～新選組の聖地を歩き、幕末の風を感じる～	E
17	『公民館だより ひの』『日野の風景』『王手は日野の万願寺』～江戸の守りは多摩川で～	F
18	『多摩のあゆみ』～『歩こう 調べよう ふるさと七生(第2版)』の紹介～	G
19	「つぶやき」～取り組みへの質疑応答編～	F
20	わかば教室による東京都埋蔵文化財センターの社会科見学をオンラインで	D F
〔担当〕A；生涯学習課 B；図書館 C；中央公民館 D；郷土資料館 E；新選組のふるさと歴史館 F；教育センター G；ゲストティーチャー		

現在、「郷土学習資料室」には、20 件のタイトルがあり、先生方が授業等で活用しやすくするために、テーマ毎にコンパクトにまとまっています。

閲覧の方法

「C 4 th」→「リンク集」→「郷土教育資料」→「郷土学習資料室」へ



No 2 「縄文時代の暮らし～竪穴式住居ができるまで～」(動画)
生涯学習課・中央公民館制作

2020年

日野の郷土へのいざない

Presented by 1課4館（生涯学習課・図書館・中央公民館・郷土資料館・新選組ふるさと歴史館）
+
教育センター

東京オリンピック
植樹碑って何？

メタセコイヤに
込められた願い

No 3 「東京オリンピック
のレガシー」
郷土資料館・中央公民
館制作

日野市立新選組のふるさと歴史館
夏の企画展【新選組ってなんだろう 2020】



謎解き！新選組のふるさと日野
～地域の歴史を調べてみよう～

No 4 「謎解き！新選組
のふるさと日野
～地域の歴史を調べ
てみよう～」
新選組のふるさと歴
史館制作



No 5 「くらしの中に図
書館を ～市民に身近な
図書館の先駆け・日野～」
図書館制作



No10「プールでがさがさ
ヤゴ探し」
郷土資料館制作

2 わかば教室との連携

平山陸稲の栽培体験

平山の林丈太郎が発見・改良した陸稲（オカボ）とは何か、水田の稲との違いは何かを確認する栽培体験を行いました。春先から田植えを行い、秋には「わかば教室」の子供たちと鳥よけの案山子を作成し、取り付けをしました。



また、刈り取った稲の天日干しをした後、「脱穀」「籾摺り」「精米」を行いました。その後、採れたお米の食べ比べを子供たちと実施しました。

オンライン社会科見学の支援

わかば教室の社会科見学がコロナ禍で中止になりましたが、見学を予定していた東京都埋蔵文化財センターの展示をオンラインでの見学を行いました。同センター館内の「常設展示」「体験コーナー」と、野外の「縄文時代の復元住居」を手にとるように見ることができました。



埋蔵文化財センターでの収録



真剣な子供たち

中央公民館、郷土資料館及び教育センターが総力を挙げての新たな試みでした。オンライン見学に参加した子供たちからは色々な質問が出て、「ぜひ見に行きたい」との声が上がっていました。

3 『歩こう 調べよう ふるさと七生(第3版)』の刊行

毎年、新3年生に『歩こう 調べよう ふるさと七生』を配布しています。今回改定したポイントは、子供たちが使用している教科書の形式に合わせて、「年代」の表記を「西暦(年号)」とし、西暦を先に表記するスタイルにしたことです。



4 若手教員育成研修会（１年次）の支援

毎年１１月に行っている「若手教員育成研修会（１年次）」に協力しました。コロナ禍の対応で、フィールドワークを講義形式に変更しました。

この研修会のねらいは二つあり、「日野の地域資源を生かした授業づくりを進めていくこと」と「外部機関との連携の大切さを知り、授業づくりに生かすこと」でした。

生涯学習課文化財係の学芸員から「平山地域の文化財について」、東京都埋蔵文化財センターの調査員から「平山遺跡の発掘調査について」の動画を駆使しての講義がありました。「新型コロナウイルス感染症が収まれば発掘調査現場を子供たちと見学したい」との、先生方の真剣な気持ちを掻き立てる講義でした。



東京都埋蔵文化財センター調査員の話を目で聴く



真剣な眼差しで遺物と向き合う

令和２年度；活動の成果と今後の課題

1 活動の成果

子供たちの身近な題材を取り上げることで、自分のこととして考え、郷土への親しみや興味を感じさせることができたこと。
様々な教科で、郷土教育と結び付けた授業に効果があると分かったこと。

1 課 4 館の情報や資料提供で効果的な教材開発ができたこと。

併せて、1 課 4 館が、「郷土学習資料室」での情報提供も行ったこと。



陸稲を脱穀した後、粳とごみを選り分ける子供たち

2 今後の課題

先生方が気軽に郷土教育に取り組めるようにするにはどうすればよいかを研究すること。

新たな郷土教材を開発し、授業を通してその効果を検証すること。

【 米田裕治教育長の一言 】

郷土教育推進研究委員のみなさん、一年間『郷土日野』との出会い、ワクワクの45分の学びをありがとうございました。

日野市の誇る「第3次日野市学校教育基本構想」を具現化するために、郷土を愛し、その地域と共に生きる子供たちの育成の研究に邁進していただきました。愛する日野の子供たちの「頭(あたま)」「心(こころ)」「体(からだ)」への多岐にわたっての働きかけを、お願いします。

今後も「郷土日野」の幟を、先頭を切って掲げていただきたく、ご健闘をお祈りしています。

～ 編集後記 ～

【加藤信秀；指導主事】

郷土教育推進研究委員の皆様は、コロナウイルス感染症による様々な制限がある中、知恵を出し合い、子供たちが日野の素晴らしさを実感できる授業を実践しました。皆様の実践は、日野の教育活動をより充実させるものであります。これまで貴重なご指導・ご助言を賜りました先生方、研究にご尽力いただきました委員の皆様にご感謝申し上げます。

【秋田克己；郷土教育推進研究委員会副委員長(旭が丘小学校副校長)】

厳しい条件の中で挑戦した1年でした。教科書に記載している内容を日野にある材料に関連付けて考えさせるという取組がありました。身近な内容なので子供たちは実感をもって深く考えるようになったことは大きな成果です。また、本委員会で過去に開発された指導事例を活用した授業もありました。子供の実態や授業のねらいに合わせて扱い方が変わり、新たな開発資料としてまとめられました。委員の皆様の精力的な取組に感謝申し上げます。

さらに、1課4館の皆様から示してくださった情報は、指導する先生自身の知見を広げながらの授業づくりにつながりました。読み直してみると改めて秀逸であることが分かります。この資料が、市内の先生方の授業づくりの一助となることを期待しております。

【清野利明；郷土教育コーディネーター】

「日野市の郷土関係機関や人材との連携を通して」との目標を掲げ1年間、1課4館と連携し、研究してきました。その一つの成果として「郷土学習資料室」へのアップをC4t hで行い、学校での教材の資料となるデータを提示することができました。今後も「郷土日野」の学びのために、連携して愛する日野の子供たちへ働きかけを行っていきたいと考えております。

【中村康成；教育センター所員】

4月、学校は休校となり、「3蜜」の回避が提唱されていました。郷土教育推進研究の活動が撤退することは「コロナに負ける」ことであり、子供に郷土教育の豊かさに触れてもらう機会を手放すこと...どうしたら見えない敵に勝てるのかと考えていました。やがて委員会で、「コロナ禍を耐えている子供たちに、わくわくの郷土学習をプレゼントしよう」「指導案作成または、授業による検証あるいは、教材づくり...委員それぞれが実施可能な研究をしよう」と、共通理解ができ、研究に取り組むことになりました。また、フィールドワーク中止に替わり、「先生方が郷土日野の良さを知るとともに、教材化のヒントをつかめるように」と、1課4館の方々が『郷土学習資料室』を制作していただきました。

この研究報告書を見て、委員一人一人の意欲や発想が様々な郷土教育の形として結実し、コロナ禍のピンチにも負けない一年にできたことを改めて確認しました。委員の皆様、役員・顧問の先生方、ありがとうございました。

郷土教育推進研究報告書

令和 2 年度（2020 年度）

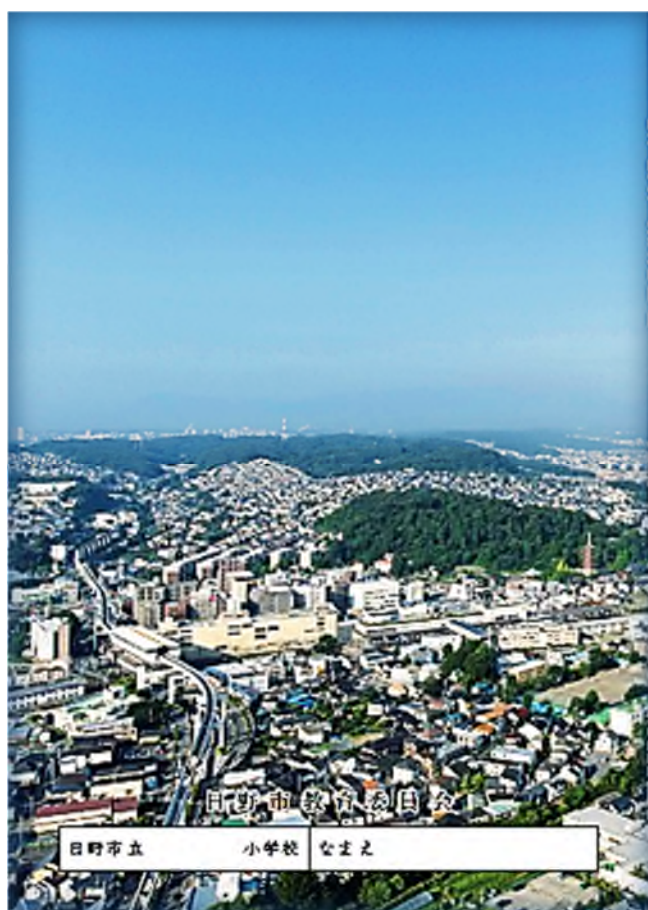
「郷土日野」指導事例

～第 15 集～

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会



七生の冊子〔表〕



七生の冊子〔裏〕